

4 特定課題

東北地方とのつながり

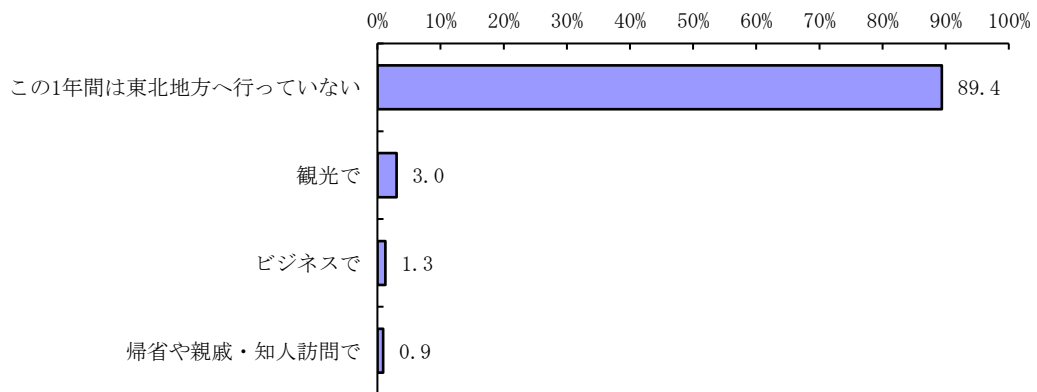
問33 東北地方へ行った理由と回数

あなたがこの1年間に東北地方（青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島）へ行った理由と回数を次の中からいくつでも選んで番号を○で囲んでください。

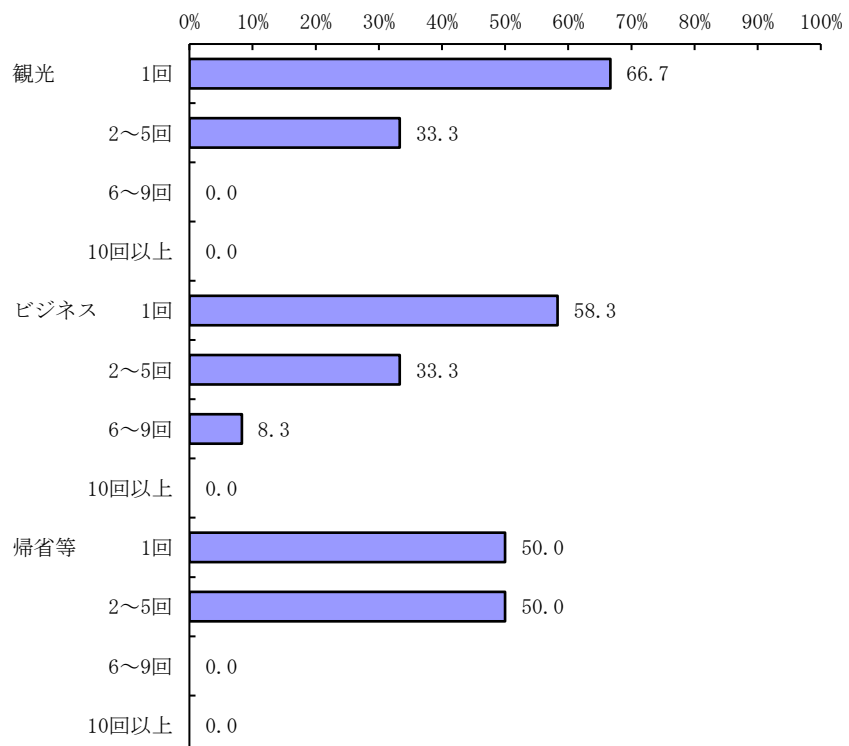
	(複数回答)	(%)
1 この1年間は東北地方へ行ってない		89.4
2 ビジネスで		1.3
3 帰省や親戚・知人訪問で		0.9
4 観光で		3.0

この1年間に東北地方（青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島）へ行ったどうかを聞いたところ、89.4%の人が「この1年間は東北地方へ行ってない」と答えている。

また、行った人の理由をみると「観光で」3.0%、「ビジネスで」1.3%、「帰省や親戚・知人訪問で」0.9%の順になっている。



東北地方（青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島）へ行った理由別に回数をみると、いずれの理由でも1回が多かったが、帰省等の場合に、2～5回行く割合の人が1回行った人と同率となっている。



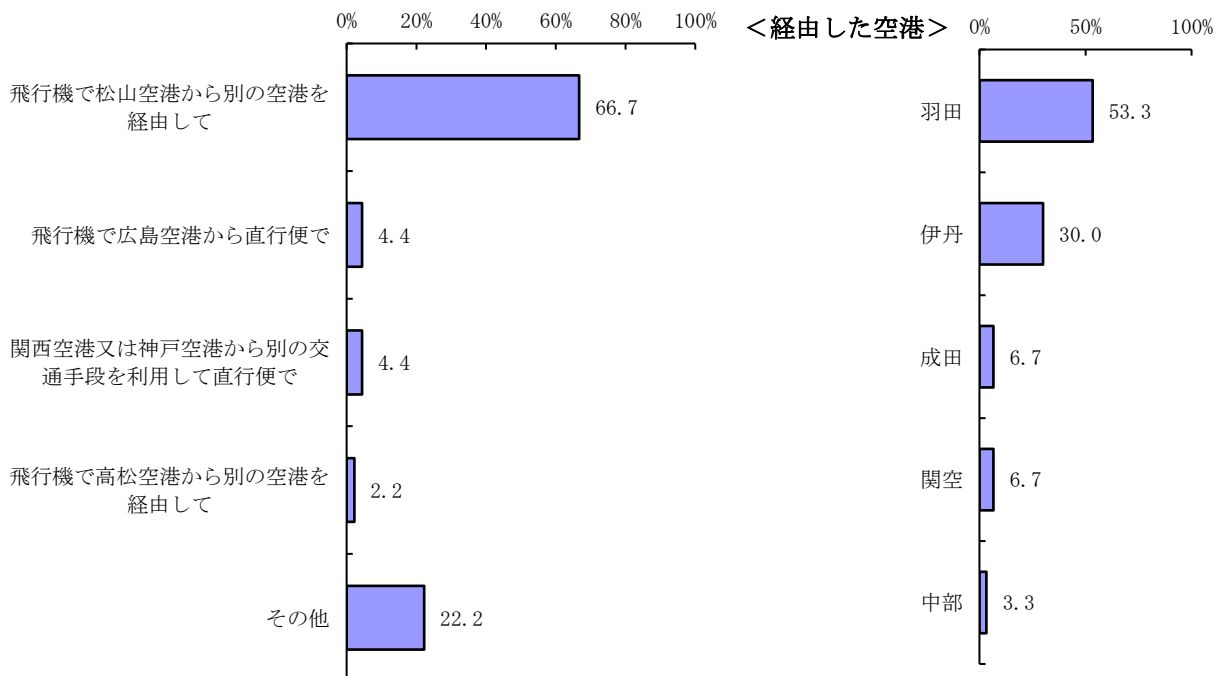
問33-1 東北地方への行程

(問33で「この1年間は東北地方へ行っていない」以外を答えた方に)

あなたがこの1年間に東北地方(青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島)へ行ったことがある場合、その行程を次の中から**全て選んで**番号を○で囲んでください。

	(複数回答)	(%)
1 飛行機で松山空港から次の空港を経由して(羽田、成田、中部、伊丹、関空)	66.7	66.7
2 飛行機で高松空港から次の空港を経由して(羽田、成田)	2.2	2.2
3 飛行機で広島空港から直行便で	4.4	4.4
4 関西空港又は神戸空港まで次の交通手段を利用して直行便で(フェリー、バス、鉄道)	4.4	4.4
5 その他	22.2	22.2

この1年間に東北地方(青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島)へ行ったことがある人に、東北までの行程を聞いたところ、「飛行機で松山空港から次の空港を経由して」と答えた人の割合が66.7%と最も多く、以下「飛行機で広島空港から直行便で」と「関西空港又は神戸空港までの次の交通手段を利用して直行便で」で同率(4.4%)、「飛行機で高松空港から次の空港を経由して」(2.2%)などの順になっている。



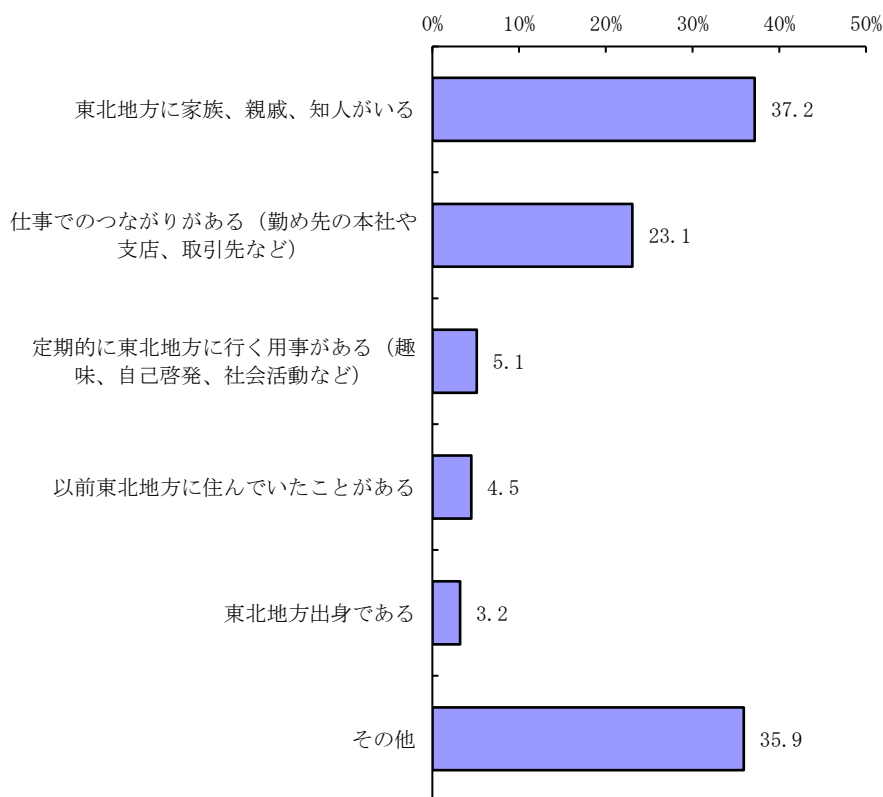
問33-2 東北地方とのつながり

あなたと東北地方（青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島）とのつながりについて、次の中から **いくつでも選んで** 番号を○で囲んでください。

	(複数回答)	(%)
1 東北地方出身である		3.2
2 東北地方に家族、親戚、知人がいる		37.2
3 以前東北地方に住んでいたことがある		4.5
4 仕事でのつながりがある（勤め先の本社や支店、取引先など）		23.1
5 定期的に東北地方に行く用事がある（趣味、自己啓発、社会活動など）		5.1
6 その他		35.9

東北地方（青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島）とのつながりについて聞いたところ、「東北地方に家族、親戚、知人がいる」と答えた人の割合が37.2%と最も多く、以下「仕事でのつながりがある（勤め先の本社や支店、取引先など）」（23.1%）、「定期的に東北地方に行く用事がある（趣味、自己啓発、社会活動など）」（5.1%）、「以前東北地方に住んでいたことがある」（4.5%）、「東北地方出身である」（3.2%）などの順になっている。

また、「その他」としては、つながりはないなどの回答が多かった。

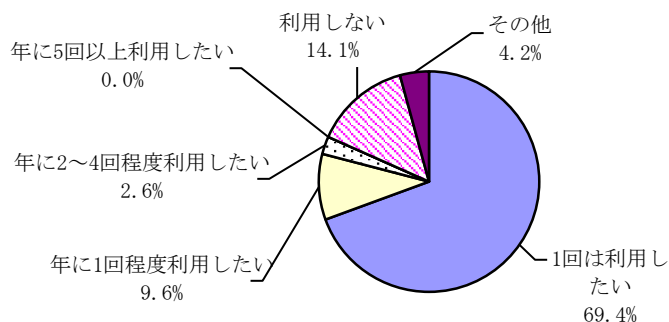


問33-3 直行便が就航した場合の利用

松山空港から東北地方（仙台）への直行便が就航した場合、利用したいと思いますか。次の中から一つ選んで番号を○で囲んで下さい。

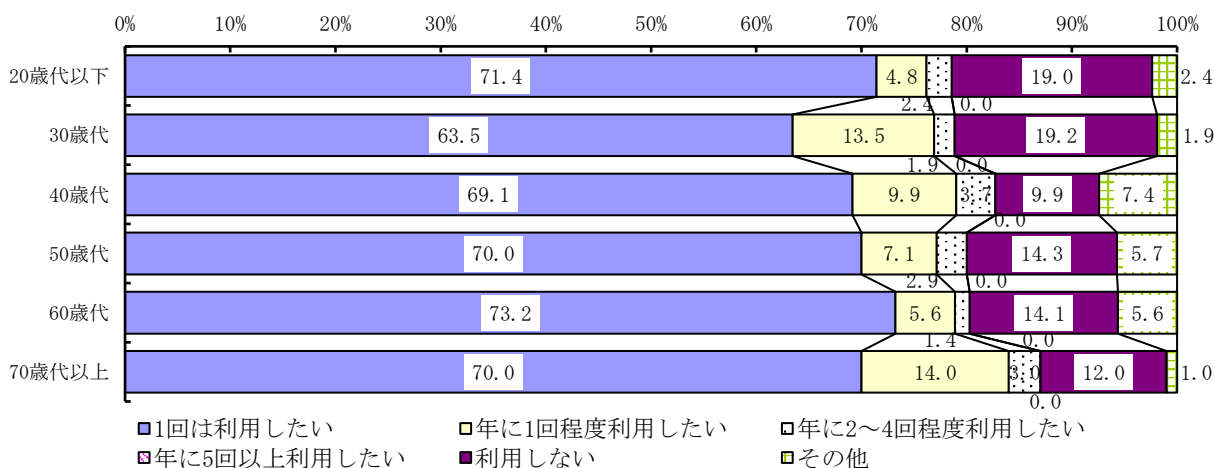
	(%)
1 1回は利用したい	69.4
2 年に1回程度利用したい	9.6
3 年に2～4回程度利用したい	2.6
4 年に5回以上利用したい	0.0
5 利用しない	14.1
6 その他	4.2

松山空港から東北地方（仙台）への直行便が就航した場合について聞いたところ、「1回は利用したい」と答えた人の割合が69.4%と最も多く、以下「年に1回程度利用したい」（9.6%）、「年に2～4回程度利用したい」（2.6%）などの順になっている。



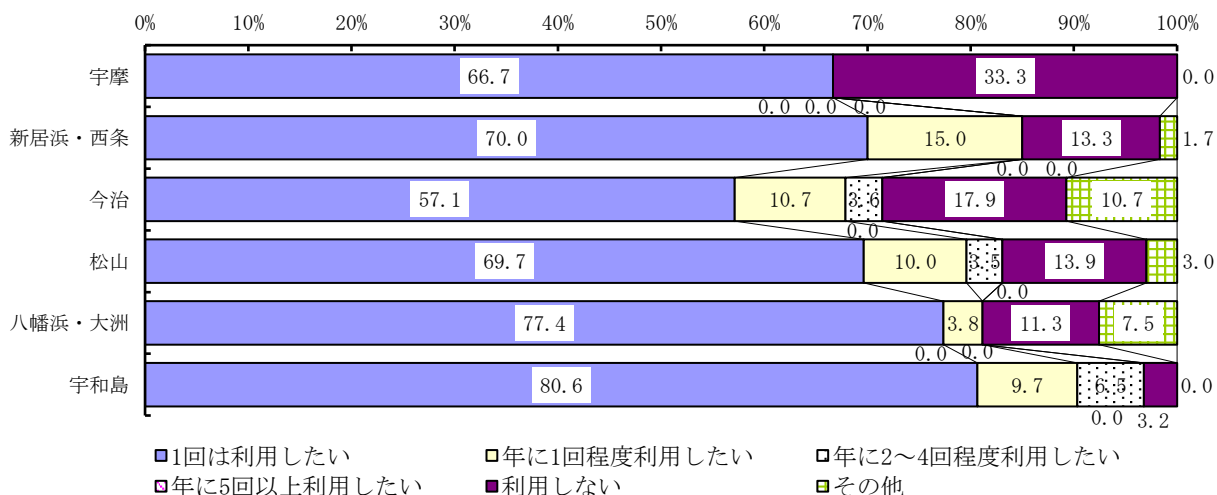
【年齢別】

年齢別にみると、全ての年齢層で「1回は利用したい」と答えた割合の人が最も多くなっている。また、30歳代及び70歳代以上では「年に1回程度利用したい」と答えた人の割合が他の年齢層と比較して多くなっている。



【生活圏域別】

生活圏域別にみると、全ての圏域で「1回は利用したい」と答えた割合の人が最も多くなっている。また、「利用したい」人の割合の合計では、宇和島圏域が96.8%と最も多くなっている。



防災に関する意識

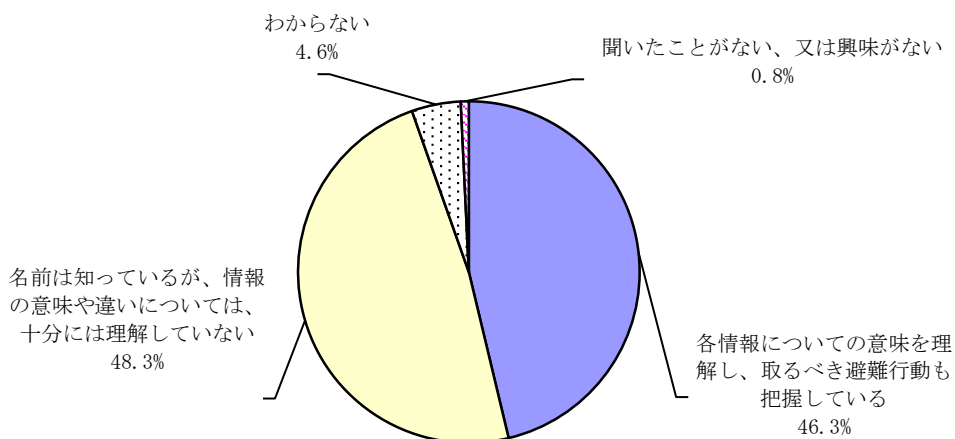
問34 避難に関する情報の理解度

あなたは、風水害などの自然災害のおそれがある場合に市町から発せられる避難に関する情報の意味等を理解していますか。次の中から**一つ選んで**番号を○で囲んでください。

市町から発せられる避難に関する情報は次のとおりです。

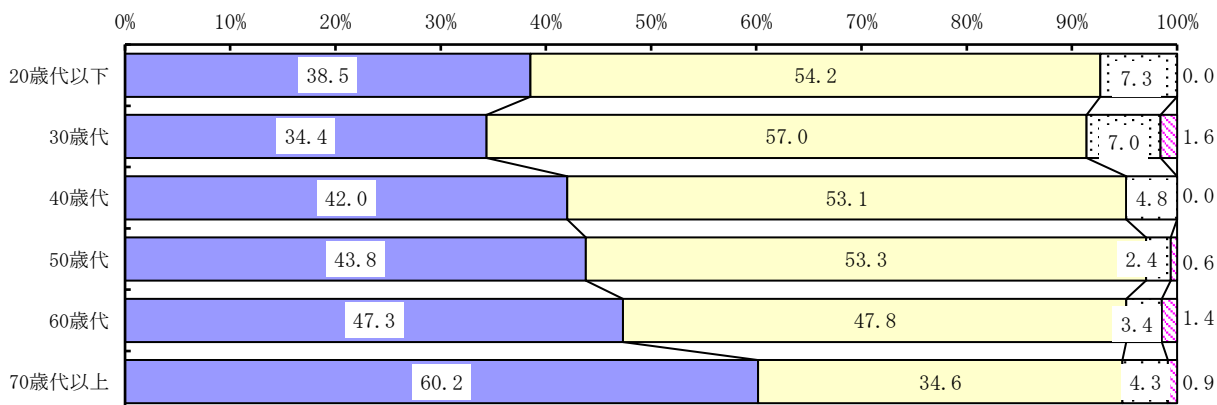
- | | | | |
|---------------------------------------|---------|-------------|------|
| ○「避難準備・高齢者等避難開始」 | ○「避難勧告」 | ○「避難指示（緊急）」 | (%) |
| 1 各情報についての意味を理解し、取るべき避難行動も把握している | | | 46.3 |
| 2 名前は知っているが、情報の意味や違いについては、十分には理解していない | | | 48.3 |
| 3 わからない | | | 4.6 |
| 4 聞いたことがない、又は興味がない | | | 0.8 |

避難に関する情報理解について聞いたところ、「名前は知っているが、情報の意味や違いについては、十分には理解していない」と答えた人の割合が48.3%で最も多く、以下「各情報についての意味を理解し、取るべき避難行動も把握している」(46.3%)、「わからない」(4.6%)、「聞いたことがない、又は興味がない」(0.8%)の順になっている。



【年齢別】

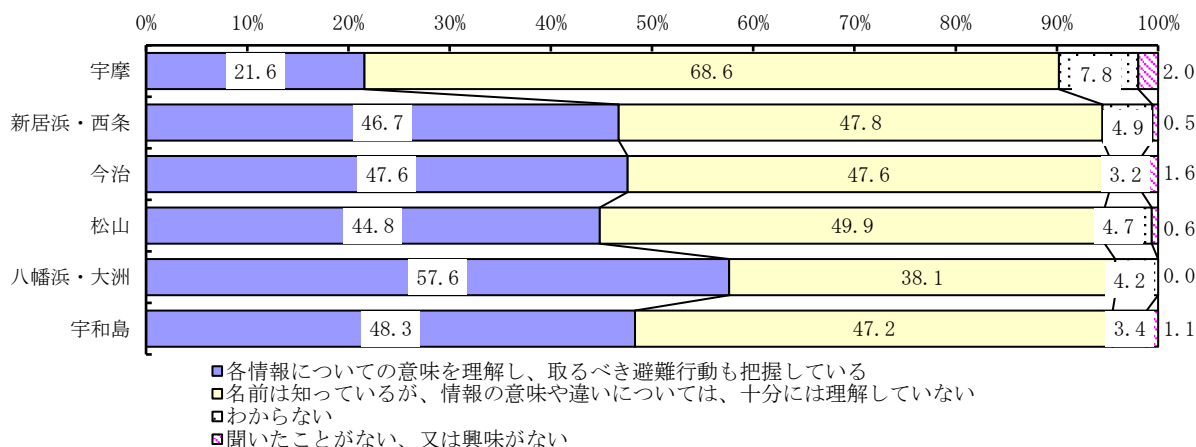
年齢別にみると、70歳代以上を除く全ての年齢層で「名前は知っているが、情報の意味や違いについては、十分には理解していない」と答えた人の割合が最も多く、70歳代以上では「各情報についての意味を理解し、取るべき避難行動も把握している」が最も多くなっている。



- 各情報についての意味を理解し、取るべき避難行動も把握している
- 名前は知っているが、情報の意味や違いについては、十分には理解していない
- わからない
- 聞いたことがない、又は興味がない

【生活圏域別】

生活圏域別にみると、八幡浜・大洲圏域及び宇和島圏域を除く全ての圏域で「名前知っているが、情報の意味や違いについては、十分には理解していない」と答えた人の割合が最も多く、今治圏域では「各情報についての意味を理解し、取るべき避難行動も把握している」も同率で最も多く、八幡浜・大洲圏域及び宇和島圏域では「各情報についての意味を理解し、取るべき避難行動も把握している」が最も多くなっている。

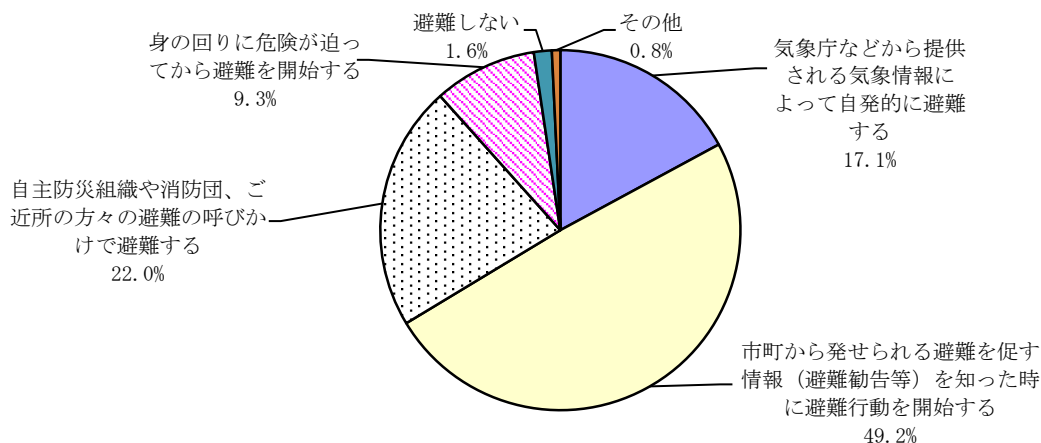


問34-1 避難行動の元になる情報

あなたは、風水害などの自然災害のおそれがある場合に、どのような情報により避難行動をとりますか。次の中から一つ選んで番号を○で囲んでください。

- | | (%) |
|--|------|
| 1 気象庁などから提供される気象情報等によって自発的に避難する | 17.1 |
| 2 市町から発せられる避難を促す情報（避難勧告等）を知った時に避難行動を開始する | 49.2 |
| 3 自主防災組織や消防団、ご近所の方々の避難の呼びかけで避難する | 22.0 |
| 4 身の回りに危険が迫ってから避難を開始する | 9.3 |
| 5 避難しない | 1.6 |
| 6 その他 | 0.8 |

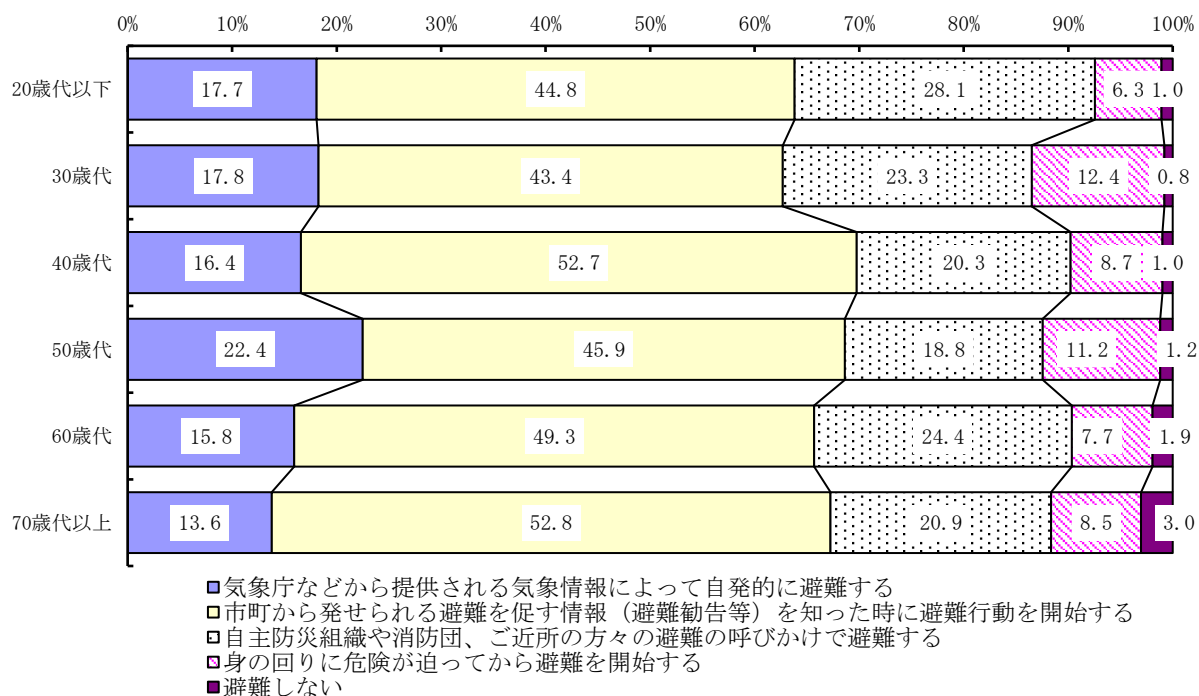
避難行動の元になる情報について聞いたところ、「市町から発せられる避難を促す情報（避難勧告等）を知った時に避難行動を開始する」と答えた人の割合が49.2%で最も多く、以下「自主防災組織や消防団、ご近所の方々の避難の呼びかけで避難する」（22.0%）、「気象庁などから提供される気象情報によって自発的に避難する」（17.1%）、「身の回りに危険が迫ってから避難を開始する」（9.3%）などの順になっている。



【年齢別】

年齢別にみると、全ての年齢層で「市町から発せられる避難を促す情報（避難勧告等）を知った時に避難行動を開始する」と答えた人の割合が最も多くなっている。

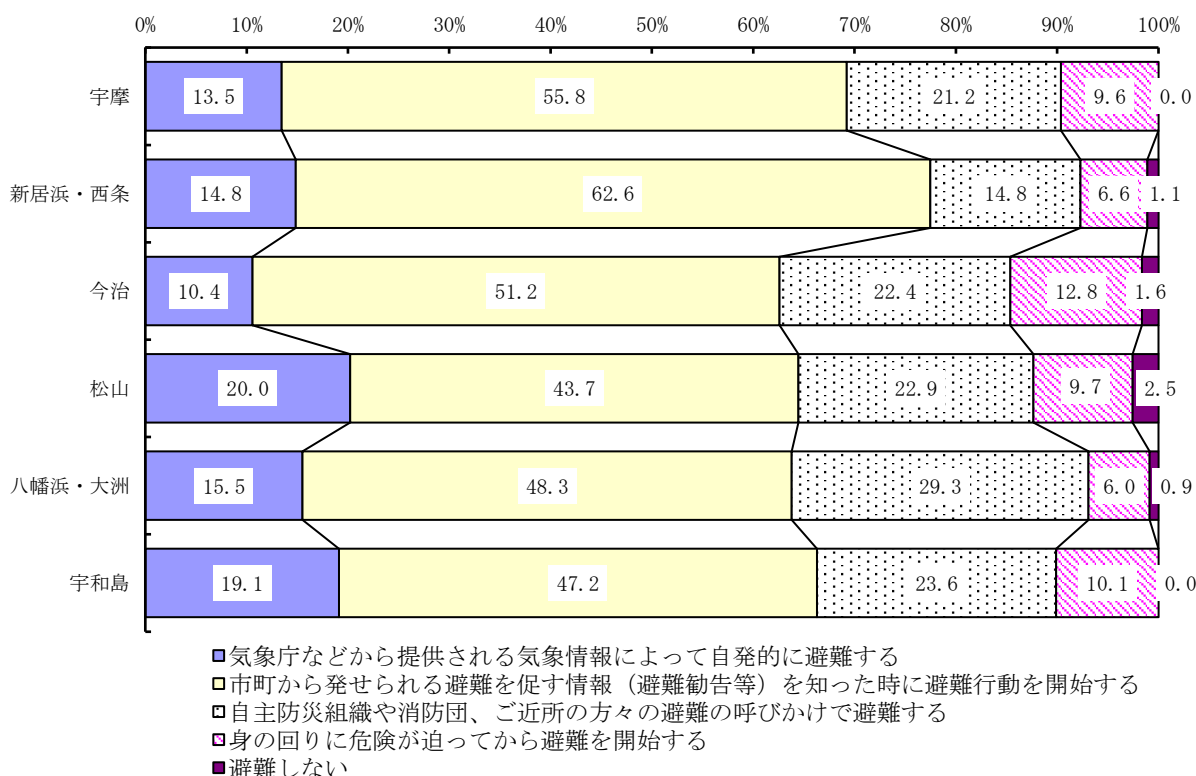
また、「気象庁などから提供される気象情報等によって自発的に避難する」と答えた割合の中で、50歳代が他の年齢層と比較して特に多くなっている。



【生活圏域別】

生活圏域別にみると、全ての圏域で「市町から発せられる避難を促す情報（避難勧告等）を知った時に避難行動を開始する」と答えた人の割合が最も多くなっている。

また、「自主防災組織や消防団、ご近所の方々の避難の呼びかけで避難する」と答えた割合の中で、八幡浜・大洲圏域が他の圏域と比較して特に多くなっている。

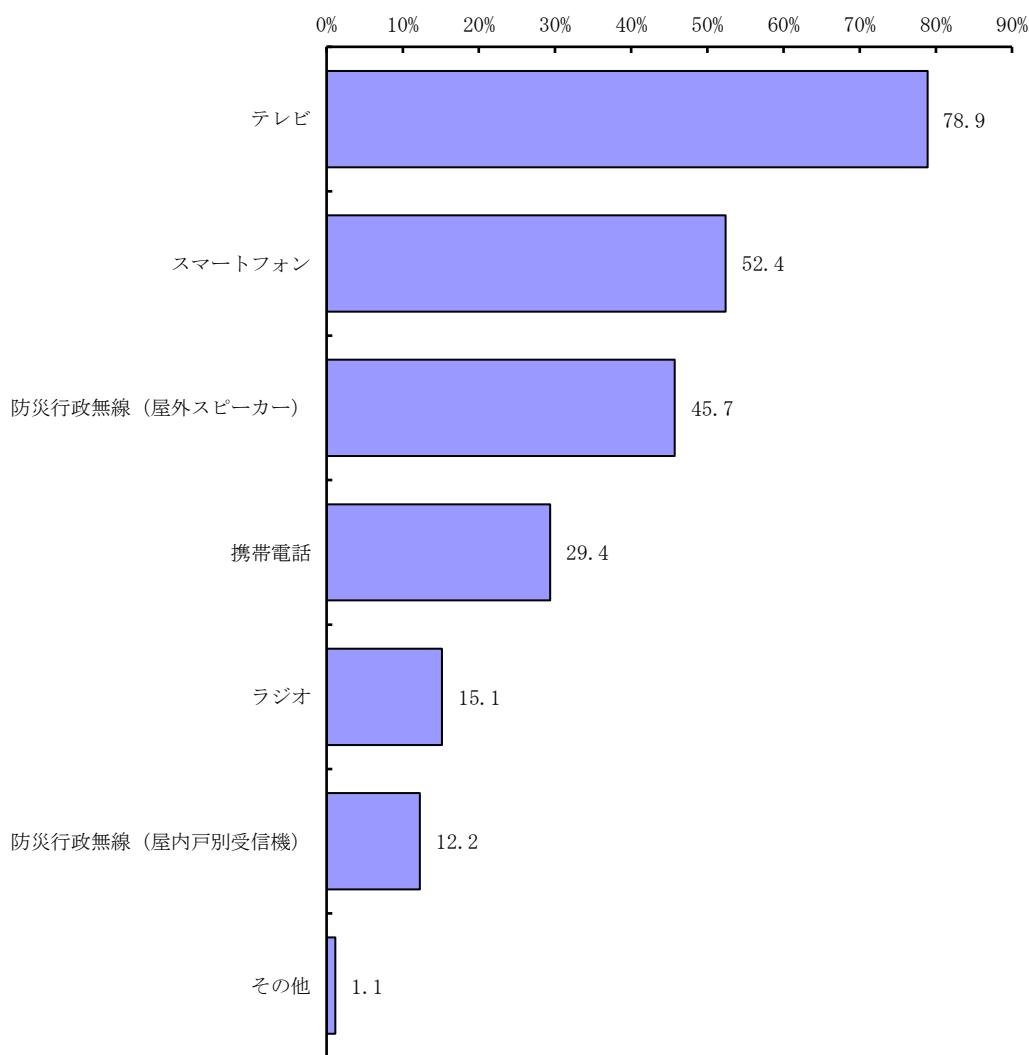


問34-2 避難を促す情報の媒体

あなたは、市町から発せられる避難を促す情報（避難勧告等）をどのような媒体で入手していますか。次の中からいくつでも選んで番号を○で囲んでください。

	(%)
1 テレビ	78.9
2 ラジオ	15.1
3 携帯電話	29.4
4 スマートフォン	52.4
5 防災行政無線（屋外スピーカー）	45.7
6 防災行政無線（屋内戸別受信機）	12.2
7 その他	1.1

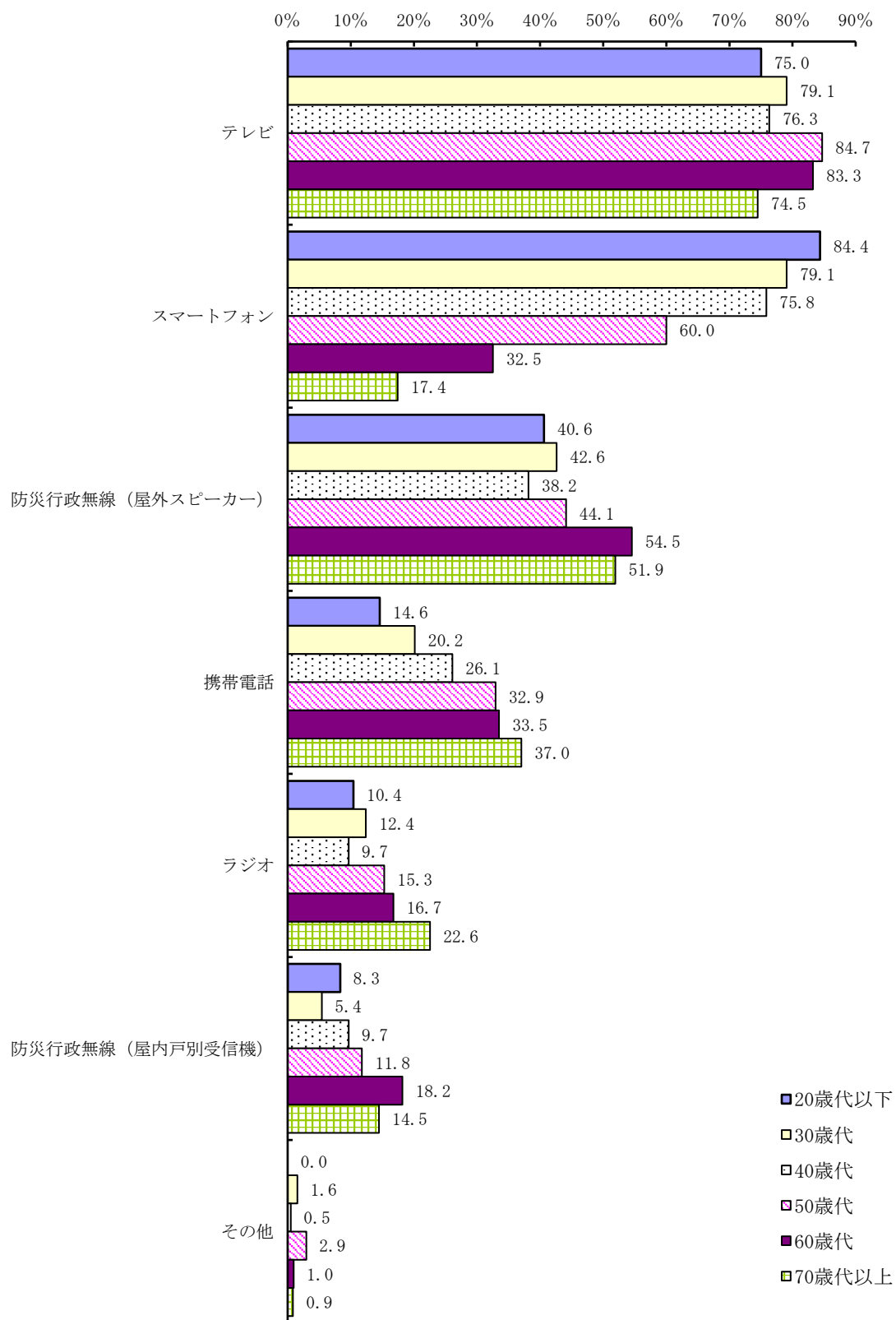
避難を促す情報の媒体について聞いたところ、「テレビ」と答えた人の割合が78.9%で最も多く、以下「スマートフォン」（52.4%）、「防災行政無線（屋外スピーカー）」（45.7%）、「携帯電話」（29.4%）、「ラジオ」（15.1%）、「防災行政無線（屋内戸別受信機）」（12.2%）などの順になっている。



【年齢別】

年齢別にみると、20歳代以下を除く全ての年齢層で「テレビ」と答えた割合が最も多く、20歳代以下では「スマートフォン」が最も多く、30歳代では「テレビ」と「スマートフォン」が同率で最も多くなっている。

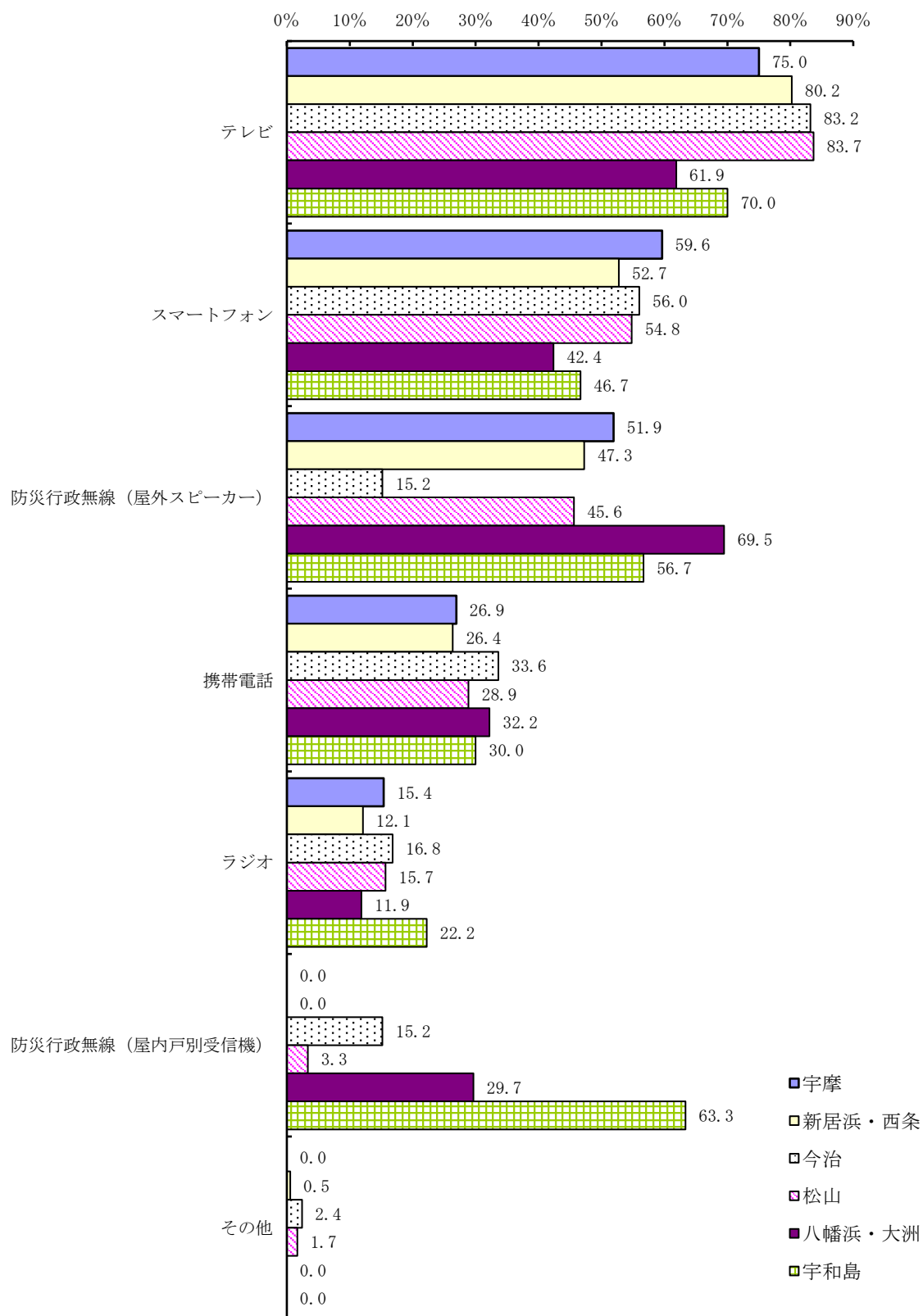
また、「携帯電話」では、50歳代以上で多くなっている。



【生活圏域別】

生活圏域別にみると、八幡浜・大洲圏域を除く全ての生活圏域で「テレビ」と答えた割合が最も多く、八幡浜・大洲圏域では「防災行政無線（屋外スピーカー）」が最も多くなっている。

また、「防災行政無線（屋内個別受信機）」と答えた人の割合の中で、宇和島圏域が他の圏域と比較して特に多くなっている。



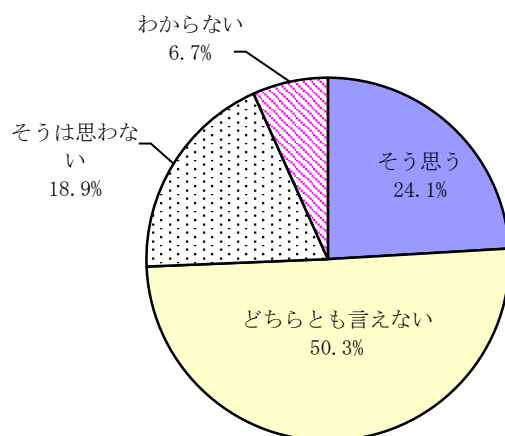
人権について

問35 人権が尊重されている社会としての意識

あなたは、今の日本は、人権が尊重されている社会だと思いますか。次の中から、あてはまるものを一つ選んで番号を○で囲んでください。

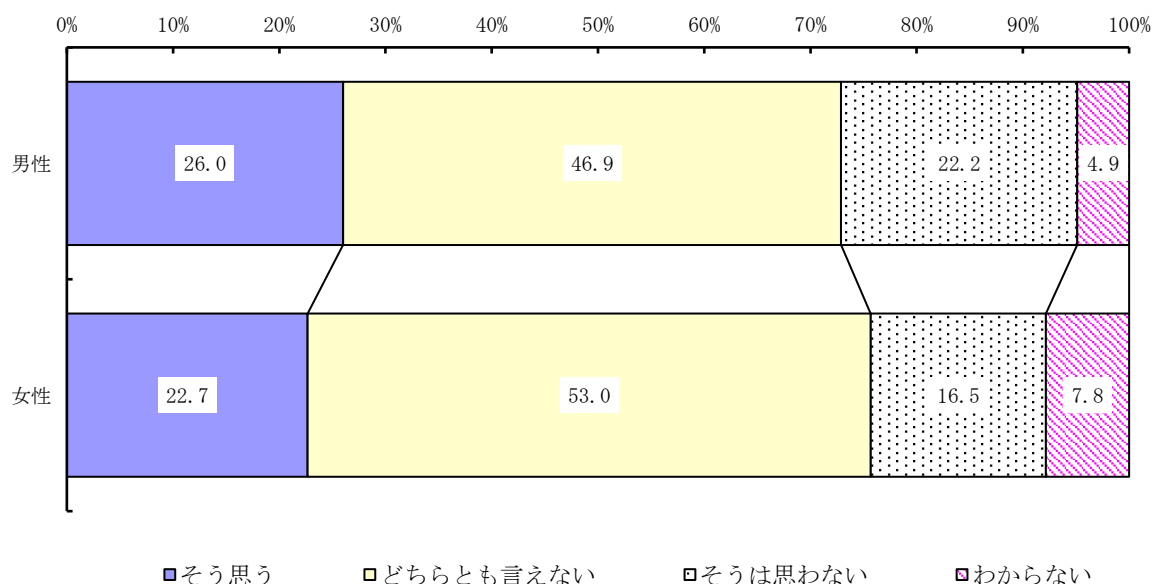
	(%)
1 そう思う	24.1
2 どちらとも言えない	50.3
3 そうは思わない	18.9
4 わからない	6.7

今の日本は、人権が尊重されている社会だと思うかについて聞いたところ、「どちらとも言えない」と答えた人の割合が50.3%と最も多く、以下「そう思う」(24.1%)、「そうは思わない」(18.9%)、「わからない」(6.7%)などの順になっている。



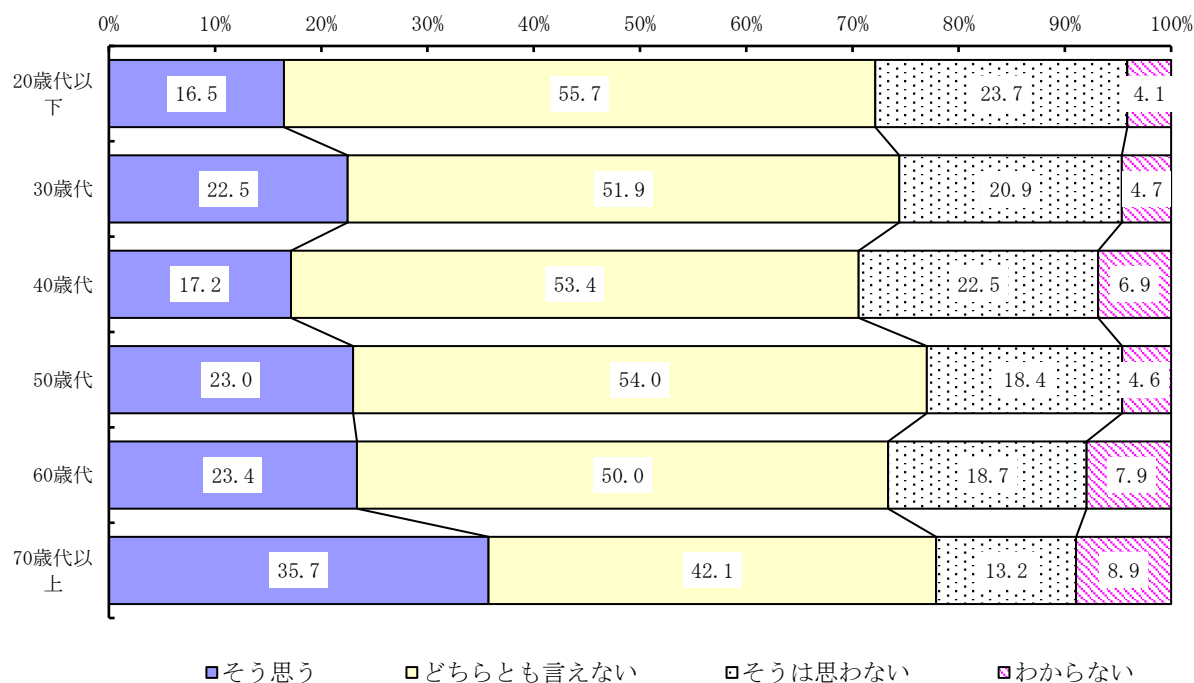
【性別】

性別にみると、男女共に「どちらとも言えない」と答えた人の割合が最も多くなっている。また、「どちらとも言えない」では、女性が男性より6.1ポイント多くなっている。



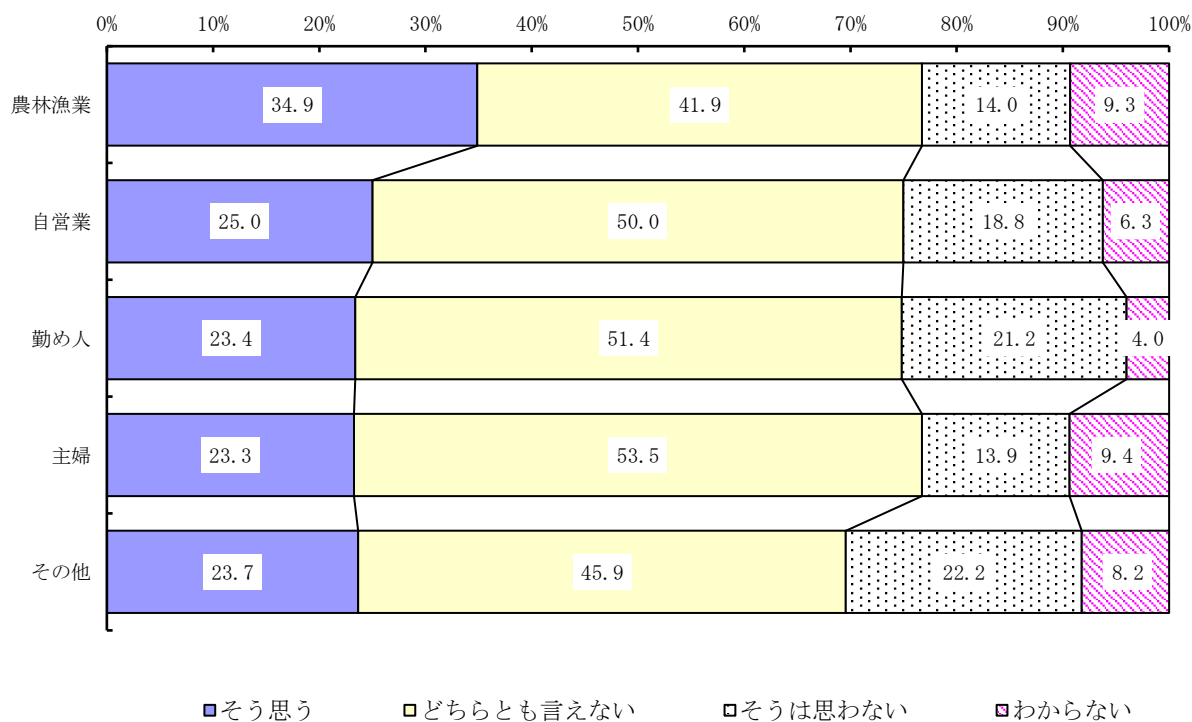
【年齢別】

年齢別にみると、全ての年齢層で「どちらとも言えない」と答えた人の割合が最も多くなっている。
また、70歳代以上では「そう思う」と答えた人の割合が他の年齢層と比較して特に多くなっている。



【職業別】

職業別で見ると、全ての職業で「どちらとも言えない」と答えた人の割合が最も多くなっている。
また、農林漁業では「そう思う」と答えた人の割合が他の職業と比較して特に多くなっている。

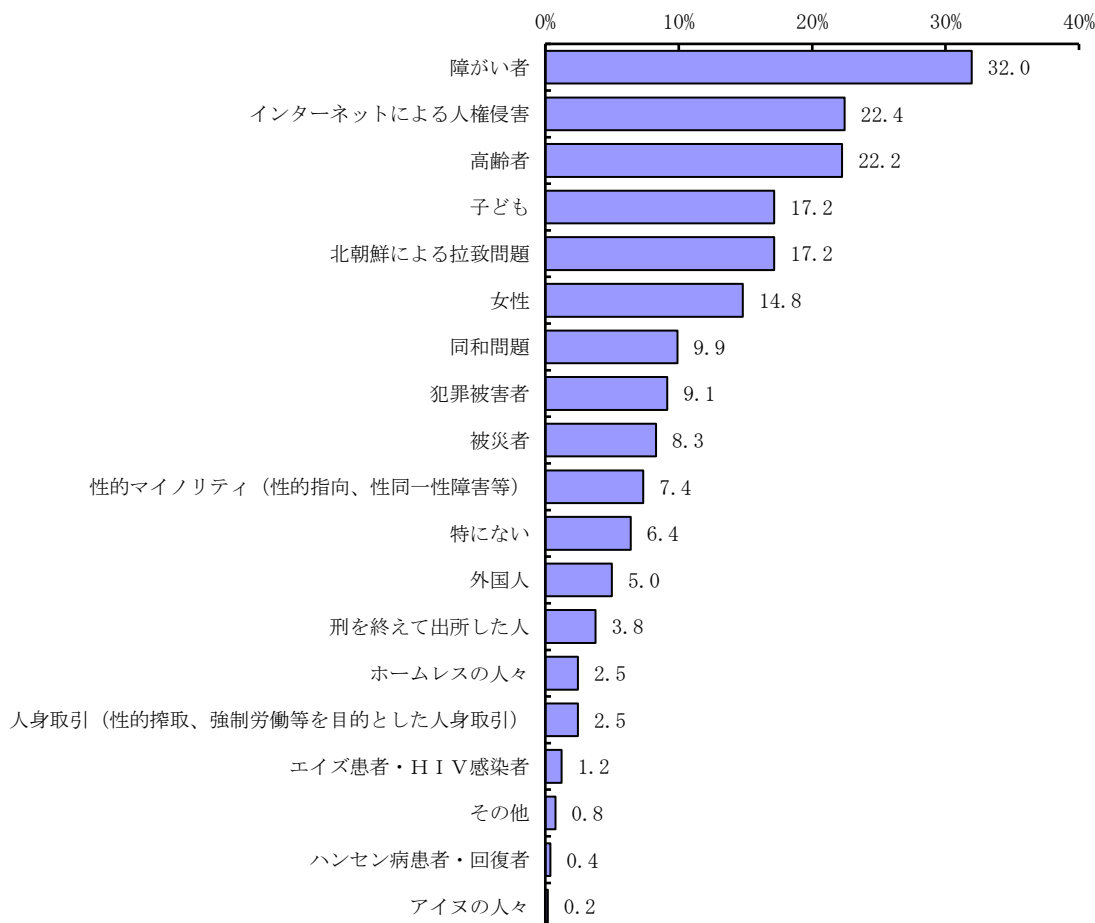


問35-1 関心のある人権問題

現代社会には、人権に関する様々な問題がありますが、あなたは、どのような問題に関心がありますか。次の中から特に関心のある問題を二つまで選んで番号を○で囲んでください。

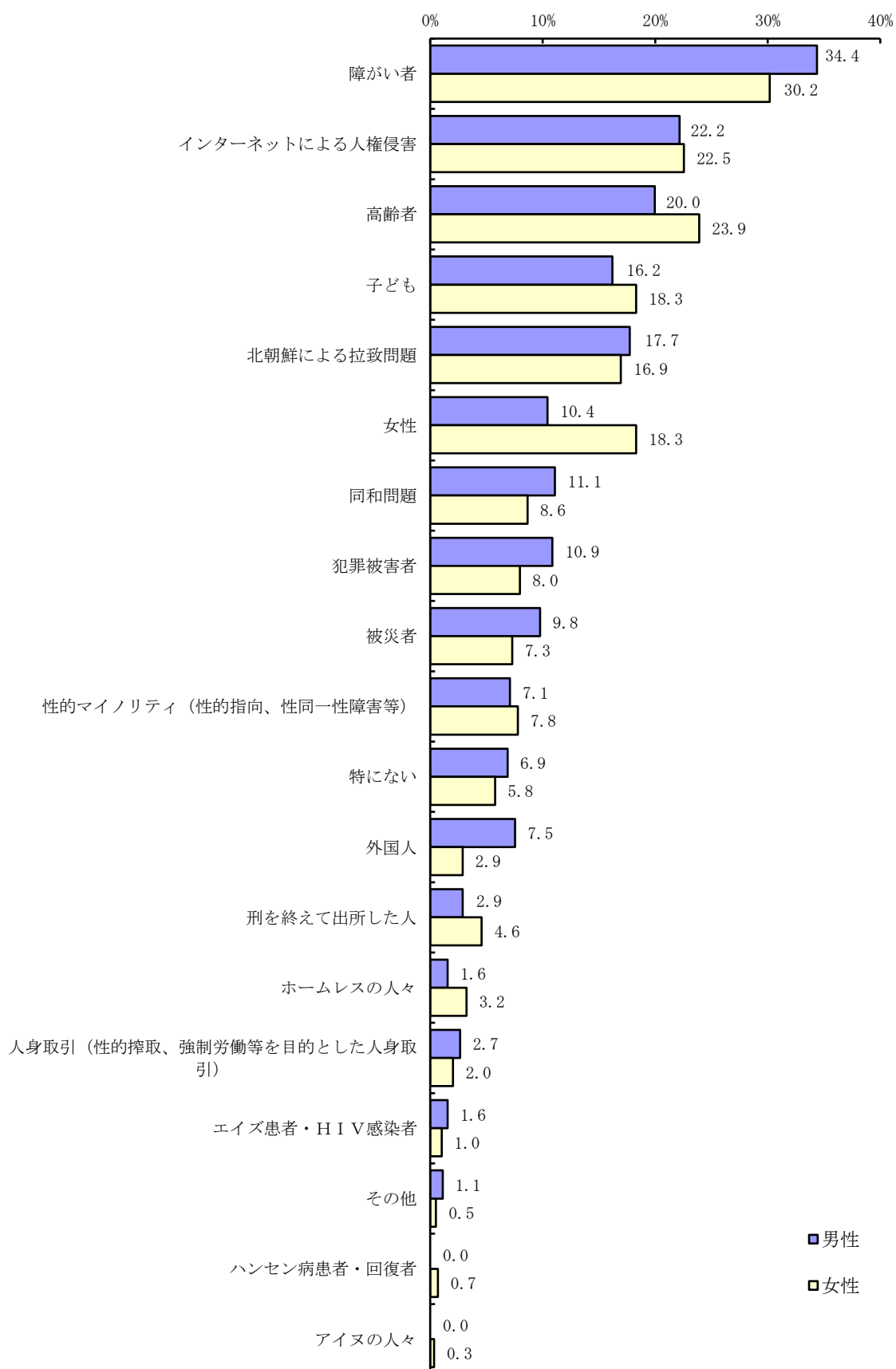
	(複数回答)	(%)
1 女性		14.8
2 子ども		17.2
3 高齢者		22.2
4 障がい者		32.0
5 同和問題		9.9
6 外国人		5.0
7 エイズ患者・HIV感染者		1.2
8 ハンセン病患者・回復者		0.4
9 犯罪被害者		9.1
10 性的マイノリティ (性的指向、性同一性障害等)		7.4
11 インターネットによる人権侵害		22.4
12 北朝鮮による拉致問題		17.2
13 被災者		8.3
14 刑を終えて出所した人		3.8
15 アイヌの人々		0.2
16 ホームレスの人々		2.5
17 人身取引 (性的搾取、強制労働等を目的とした人身取引)		2.5
18 その他		0.8
19 特にない		6.4

関心のある人権問題について聞いたところ、「障がい者」と答えた人の割合が32.0%と最も多く、以下「インターネットによる人権侵害」(22.4%)、「高齢者」(22.2%)、「子ども」(17.2%)、「北朝鮮による拉致問題」(17.2%)などの順になっている。



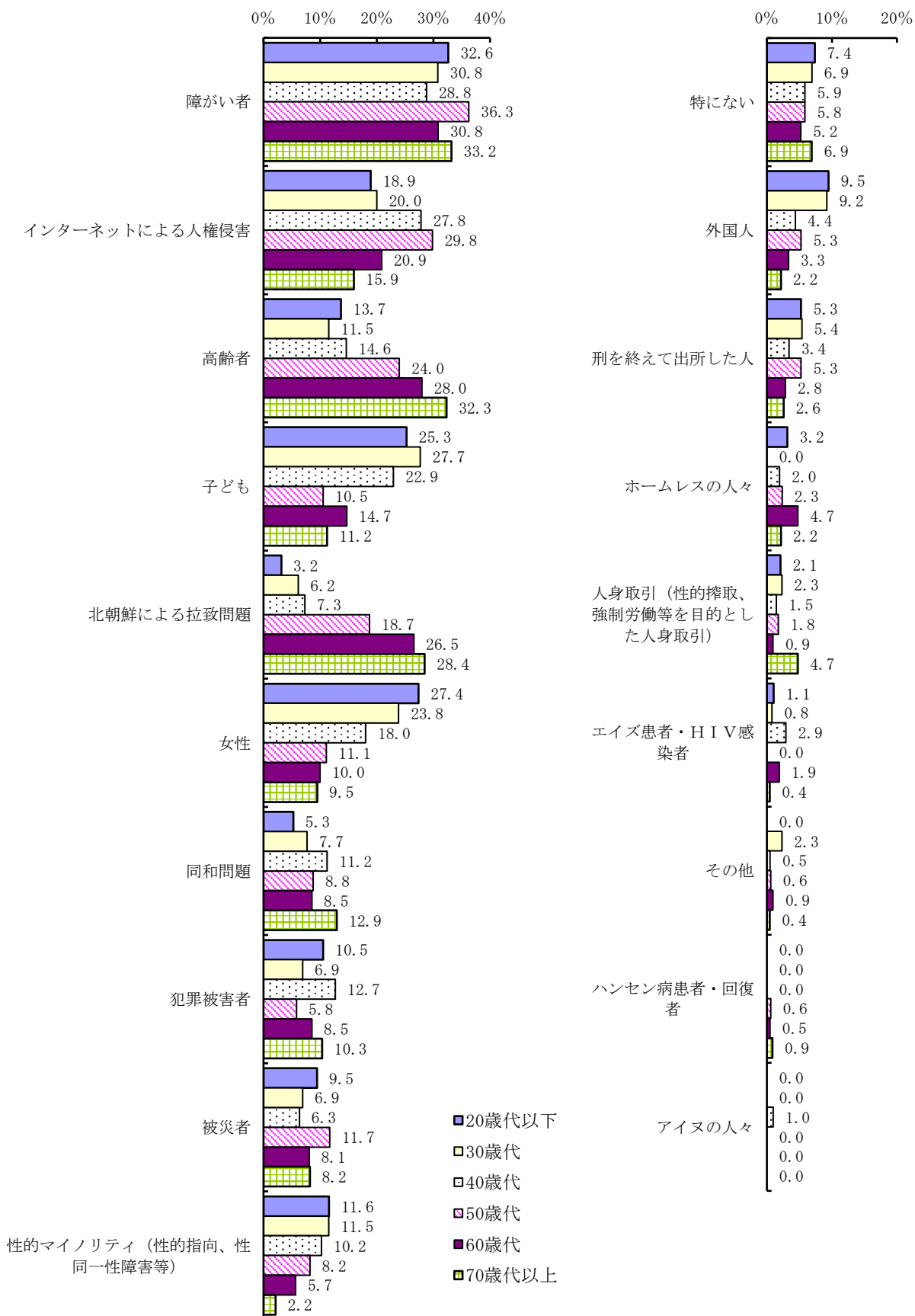
【性別】

性別にみると、男女共に「障がい者」と答えた人の割合が最も多くなっている。
また、「女性」と答えた人の割合は、女性が男性より7.9ポイント多くなっている。



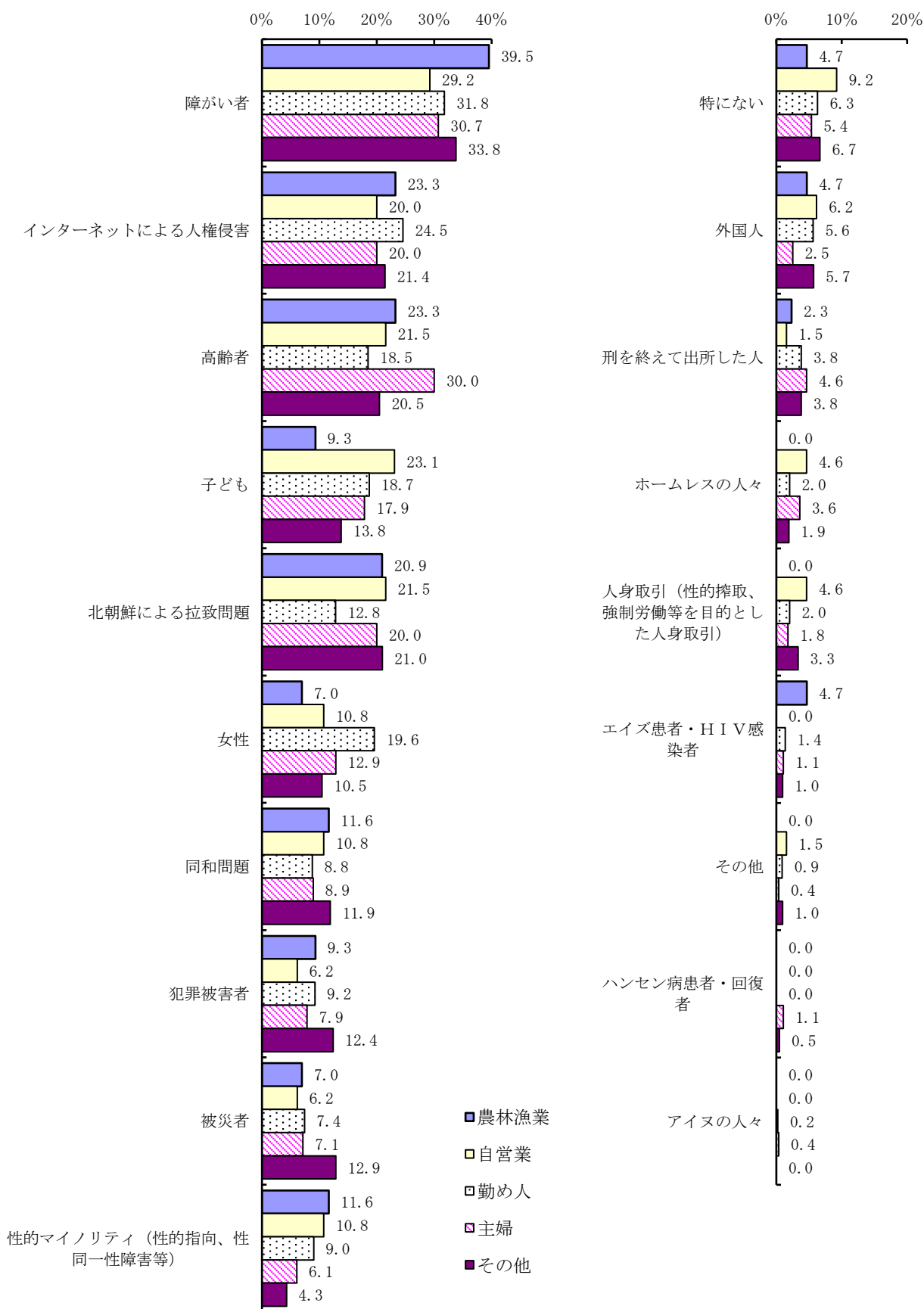
【年齢別】

年齢別にみると、全ての年齢層で「障がい者」と答えた人の割合が最も多くなっている。
 また、60歳代及び70歳代以上では「北朝鮮による拉致問題」と答えた人の割合が他の年齢層と比較して特に多くなっている。



【職業別】

職業別にみると、全ての職業で「障がい者」と答えた人の割合が最も多くなっている。
また、主婦では「高齢者」と答えた人の割合が他の職業と比較して特になくなっている。



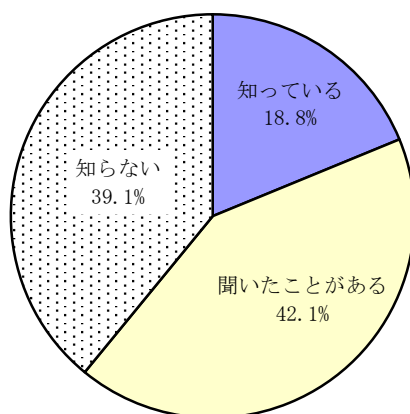
生物多様性の保全

問36 「生物多様性」という言葉の認知度

「生物多様性」とは、地域には固有の自然があり、それぞれに特有の数多くの生き物が存在し、そしてそれらが様々な関係で繋がりにある状態のことであり、我々は、こうした自然から衣食住に始まり、豊かな文化、災害防止などの安全・安心の基礎など、様々な恩恵（生態系サービス）を受けています。あなたは、「生物多様性」という言葉をご存知でしたか。次の中から一つ選んで番号を○で囲んでください。

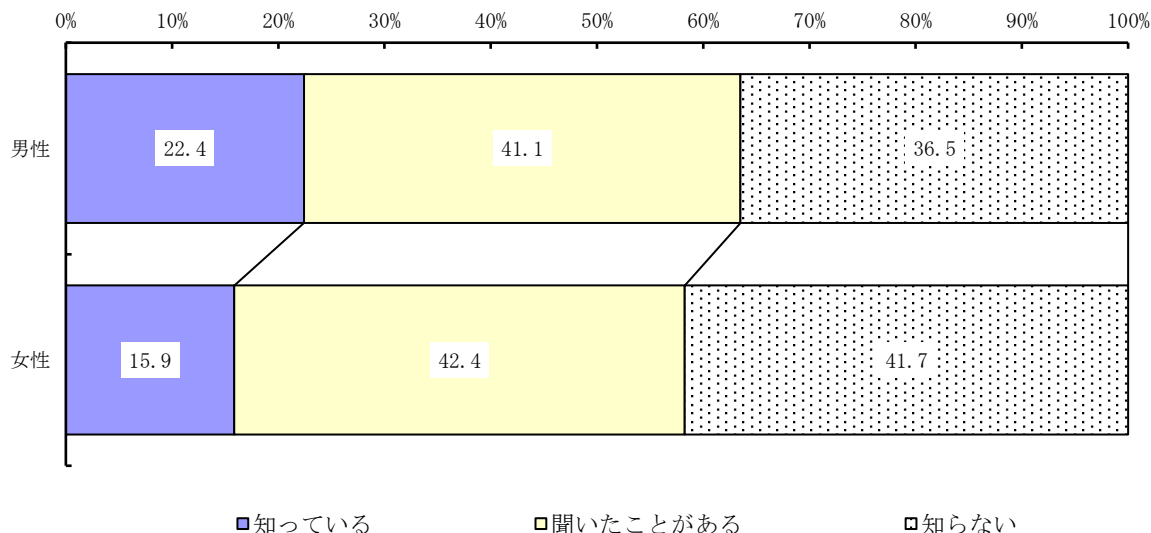
	(%)
1 知っている	18.8
2 聞いたことがある	42.1
3 知らない	39.1

「生物多様性」という言葉を知っていたかについて聞いたところ、「聞いたことがある」と答えた人の割合が42.1%と最も多く、以下「知らない」(39.1%)、「知っている」(18.8%)の順になっている。



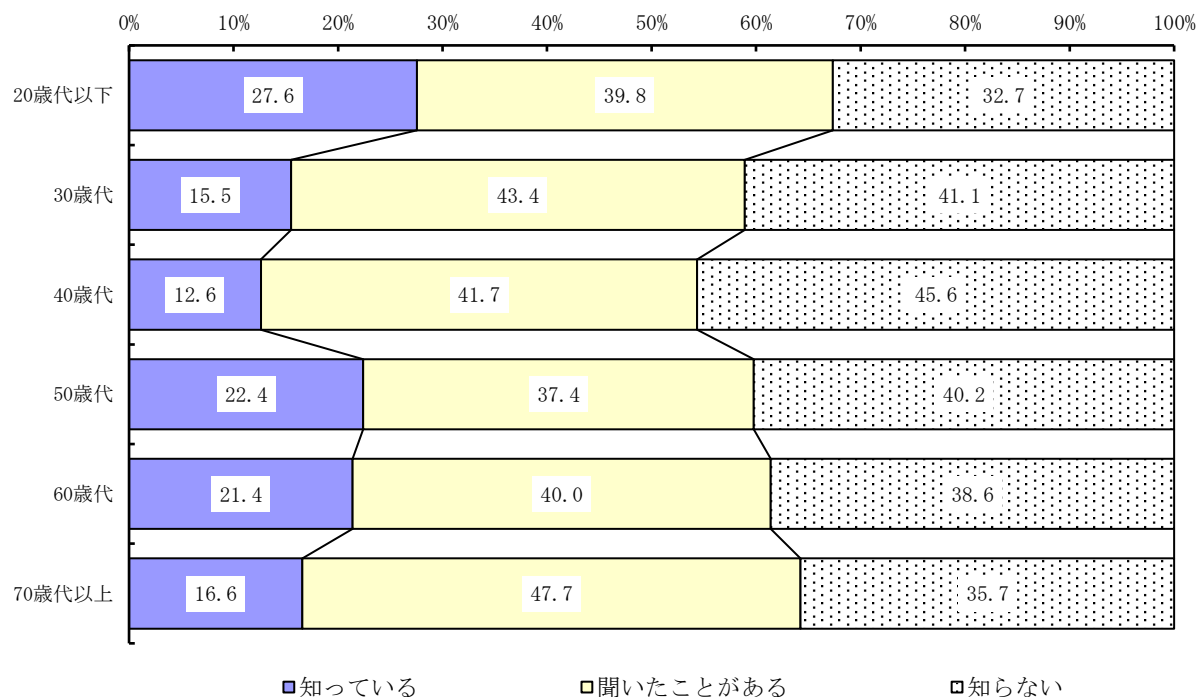
【性別】

性別にみると、男女共に「聞いたことがある」と答えた人の割合が最も多くなっている。また、「知っている」では、男性が女性より6.5ポイント多くなっている。



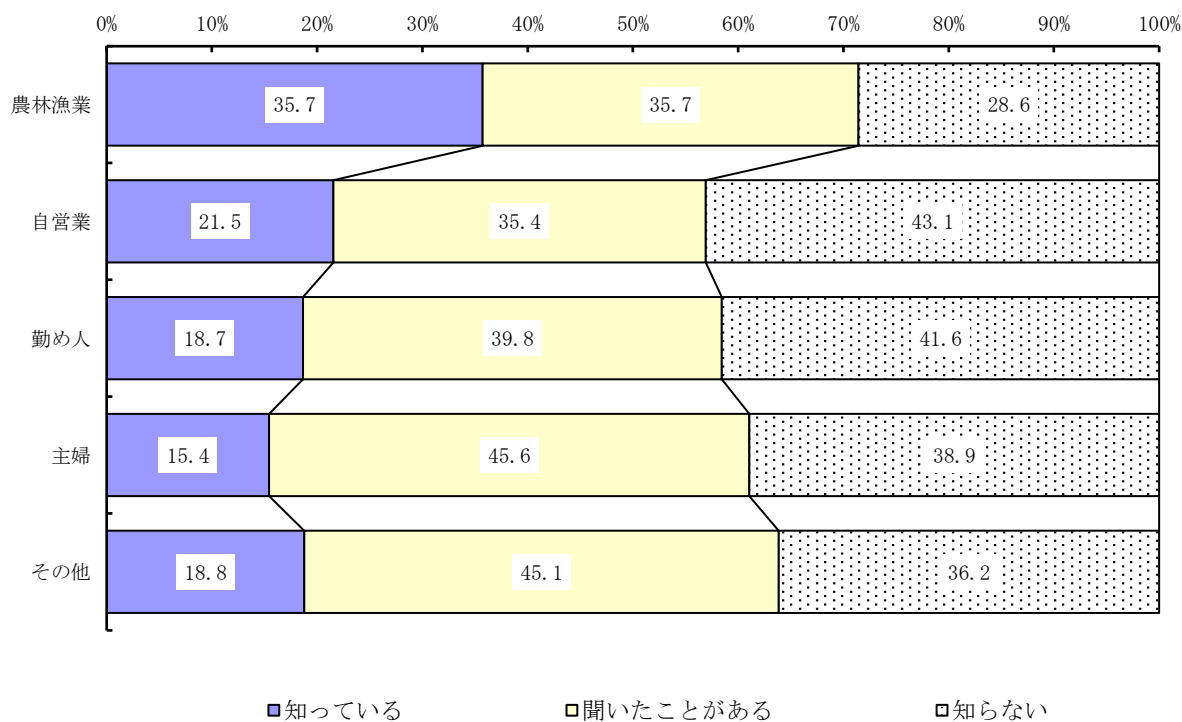
【年齢別】

年齢別にみると、40歳代及び50歳代を除く全ての年齢層で「聞いたことがある」と答えた人の割合が最も多く、40歳代及び50歳代では「知らない」が最も多くなっている。



【職業別】

職業別にみると、農林漁業、主婦及びその他で「聞いたことがある」と答えた人の割合が最も多く、自営業及び勤め人では「知らない」が最も多くなっている。
また、農林漁業では「聞いたことがある」と「知っている」が同率で最も多くなっている。



問36-1 生物多様性保全のための取り組み（県が力を入れるべきことから）

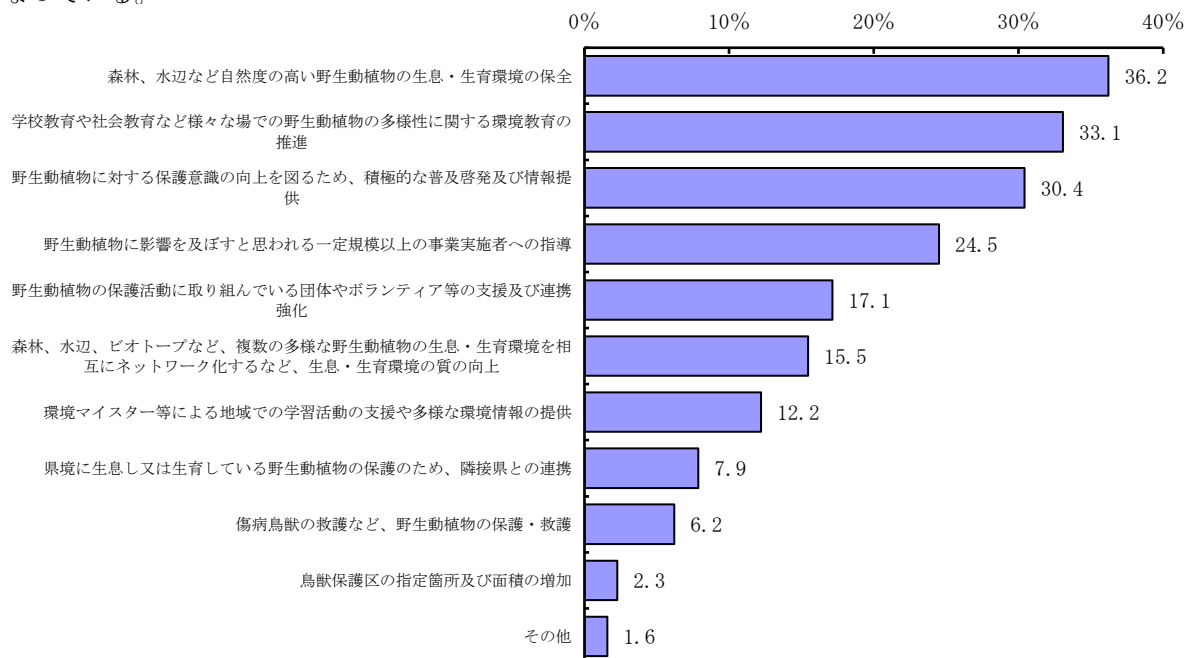
将来にわたって、生物多様性の保全を図っていくために、今後、県はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。次の中からあなたの考えに近いものを二つまで選んで番号を○で囲んでください。

	(複数回答)	(%)
1 野生動植物に対する保護意識の向上を図るため、積極的な普及啓発及び情報提供		30.4
2 環境マイスター（注1）等による地域での学習活動の支援や多様な環境情報の提供		12.2
3 野生動植物に影響を及ぼすと思われる一定規模以上の事業実施者への指導		24.5
4 森林、水辺など自然度の高い野生動植物の生息・生育環境の保全		36.2
5 森林、水辺、ビオトープ（注2）など、複数の多様な野生動植物の生息・生育環境を相互にネットワーク化するなど、生息・生育環境の質の向上		15.5
6 傷病鳥獣の救護など、野生動植物の保護・救護		6.2
7 鳥獣保護区の指定箇所及び面積の増加		2.3
8 学校教育や社会教育など様々な場での野生動植物の多様性に関する環境教育の推進		33.1
9 野生動植物の保護活動に取り組んでいる団体やボランティア等の支援及び連携強化		17.1
10 県境に生息し又は生育している野生動植物の保護のため、隣接県との連携		7.9
11 その他		1.6

注1 環境マイスター：地域の環境学習活動等に派遣される県内の登録された研究者等。

注2 ビオトープ：生物が住んでいる場所のことで、生息場所とも言われる。

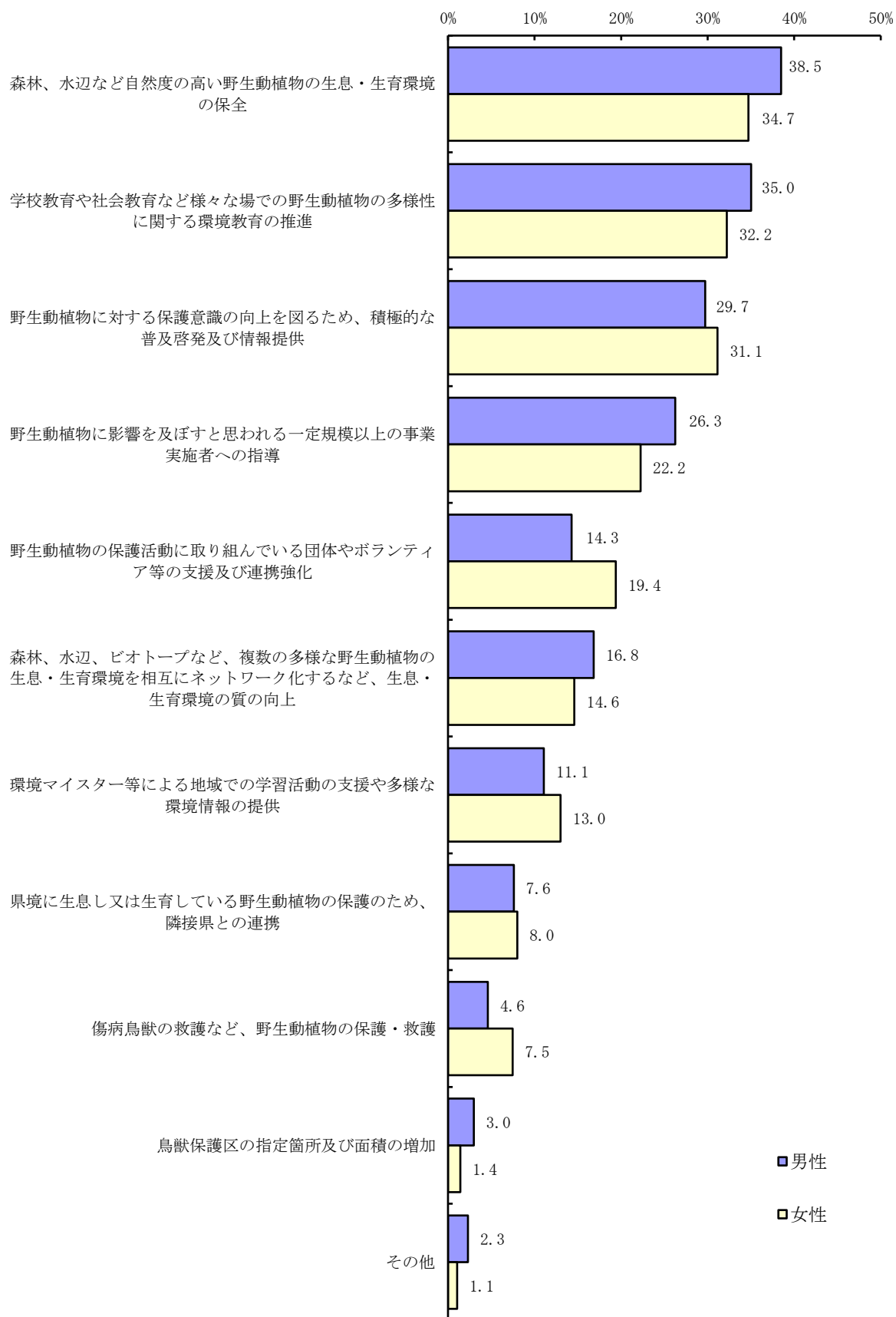
将来にわたって、生物多様性の保全を図って行くために、今後、県はどのようなことに力を入れて行くべきだと思うかについて聞いたところ、「森林、水辺など自然度の高い野生動植物の生息・生育環境の保全」と答えた人の割合が36.2%と最も多く、以下「学校教育や社会教育など様々な場での野生動植物の多様性に関する環境教育の推進」（33.1%）、「野生動植物に対する保護意識の向上を図るため、積極的な普及啓発及び情報提供」（30.4%）、「野生動植物に影響を及ぼすと思われる一定規模以上の事業実施者への指導」（24.5%）、「野生動植物の保護活動に取り組んでいる団体やボランティア等の支援及び連携強化」（17.1%）、「森林、水辺、ビオトープなど、複数の多様な野生動植物の生息・生育環境を相互にネットワーク化するなど、生息・生育環境の質の向上」（15.5%）、「環境マイスター等による地域での学習活動の支援や多様な環境情報の提供」（12.2%）などの順になっている。



【性別】

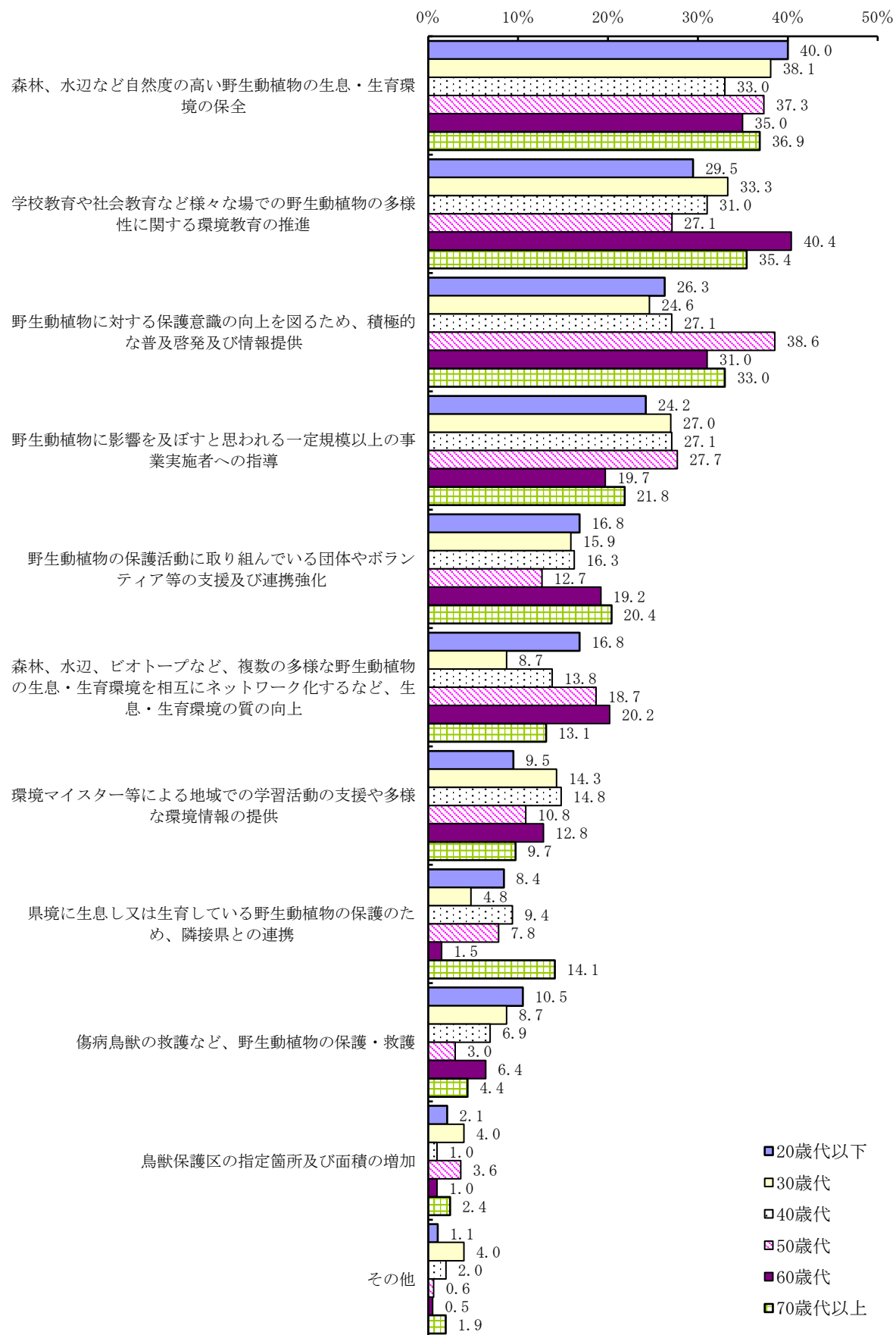
性別にみると、男女共に「森林、水辺など自然度の高い野生動植物の生息・生育環境の保全」と答えた人の割合が最も多くなっている。

また、「野生動植物の保護活動に取り組んでいる団体やボランティア等の支援及び連携強化」では、女性が男性より5.1ポイント多くなっている。



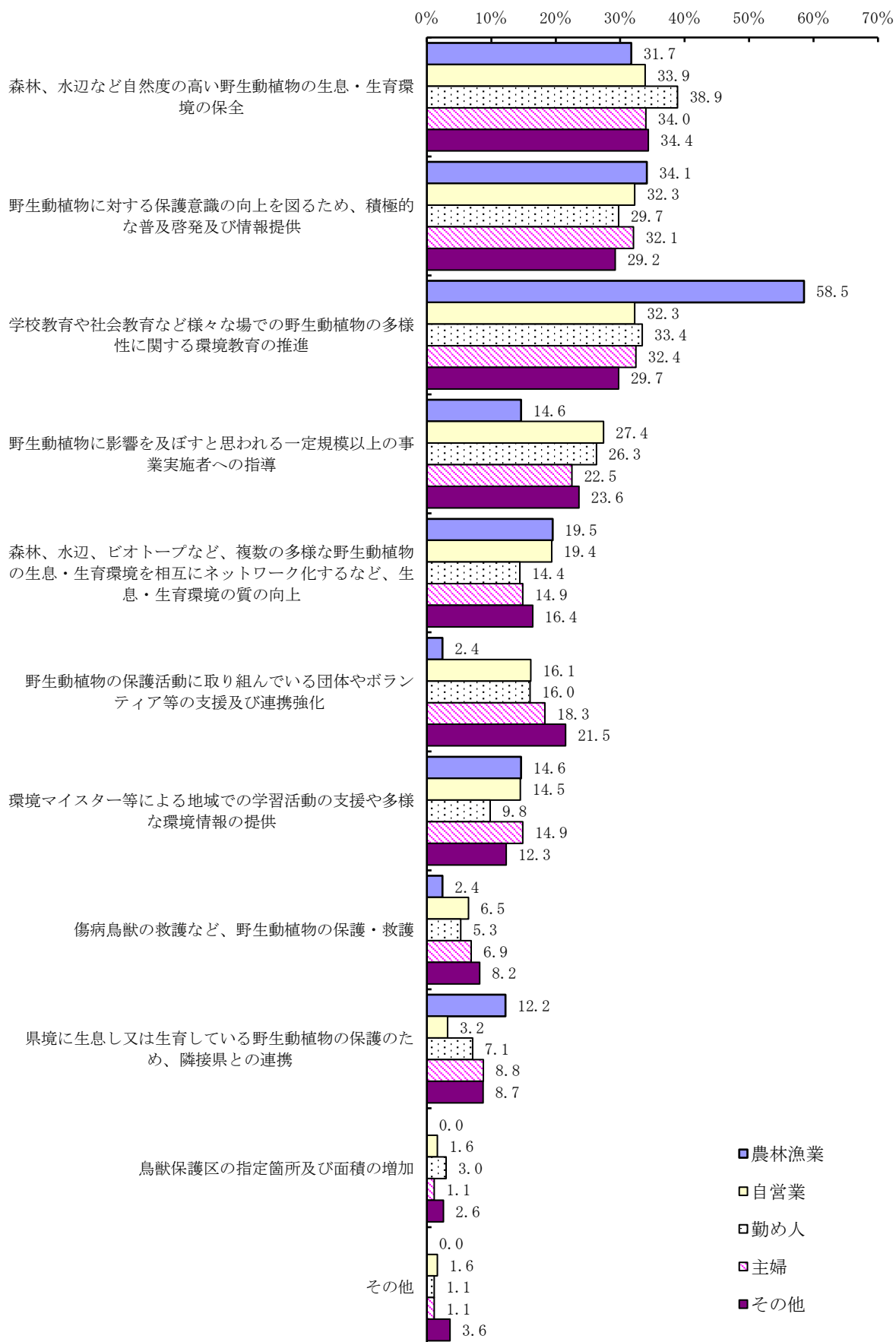
【年齢別】

年齢別にみると、50歳代及び60歳代を除く全ての年齢層で「森林、水辺など自然度の高い野生動植物の生息・生育環境の保全」と答えた人の割合が最も多く、50歳代では、「野生動植物に対する保護意識の向上を図るため、積極的な普及啓発及び情報提供」が最も多く、60歳代では「学校教育や社会教育など様々な場での野生動植物の多様性に関する環境教育の推進」が最も多くなっている。



【職業別】

職業別にみると、農林漁業を除く全ての職業で「森林、水辺など自然度の高い野生動植物の生息・生育環境の保全」と答えた人の割合が最も多く、農林漁業では「学校教育や社会教育など様々な場での野生動植物の多様性に関する環境教育の推進」が最も多くなっている。



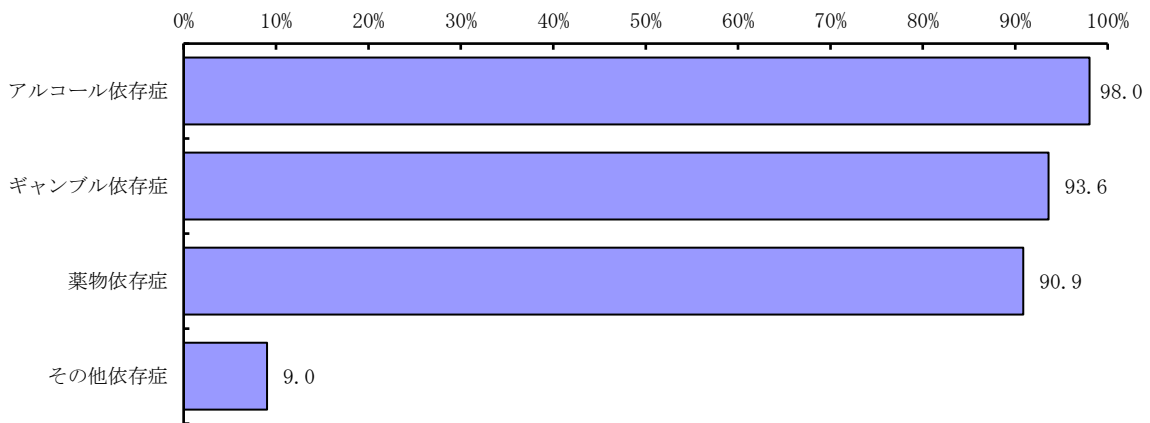
依存症の認知度について
問37 依存症の認知度

アルコールや薬物、ギャンブル（パチンコ等）など、やめたくてもやめられない状況の場合は依存症の可能性があるとされています。これらアルコール、薬物、ギャンブル依存症について、これまでに聞いたことがありますか。ある場合は、次の中からいくつでも選んで番号を○で囲んでください。

	(複数回答)	(%)
1 アルコール依存症		98.0
2 薬物依存症		90.9
3 ギャンブル等依存症		93.6
4 その他依存症		9.0

アルコール、薬物、ギャンブル依存症について聞いたところ、「アルコール依存症」と答えた人の割合が98.0%と最も多く、以下「ギャンブル依存症」（93.6%）、「薬物依存症」（90.9%）などの順になっている。

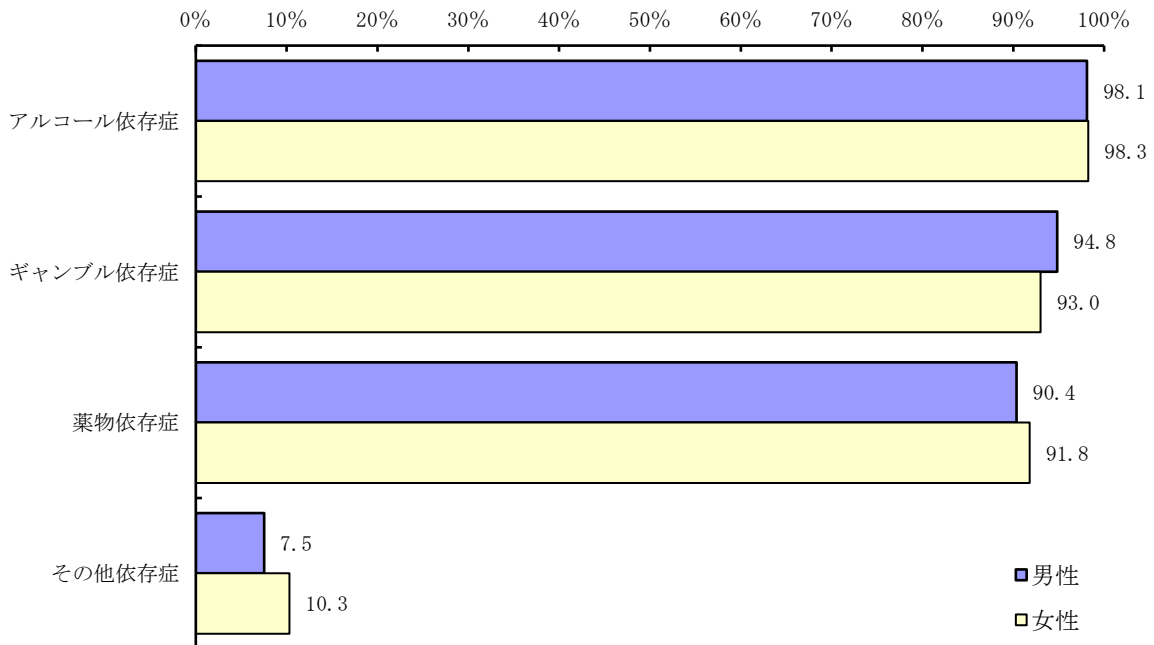
また、「その他依存症」としては、「インターネット」「ゲーム」「たばこ」などの回答があった。



【性別】

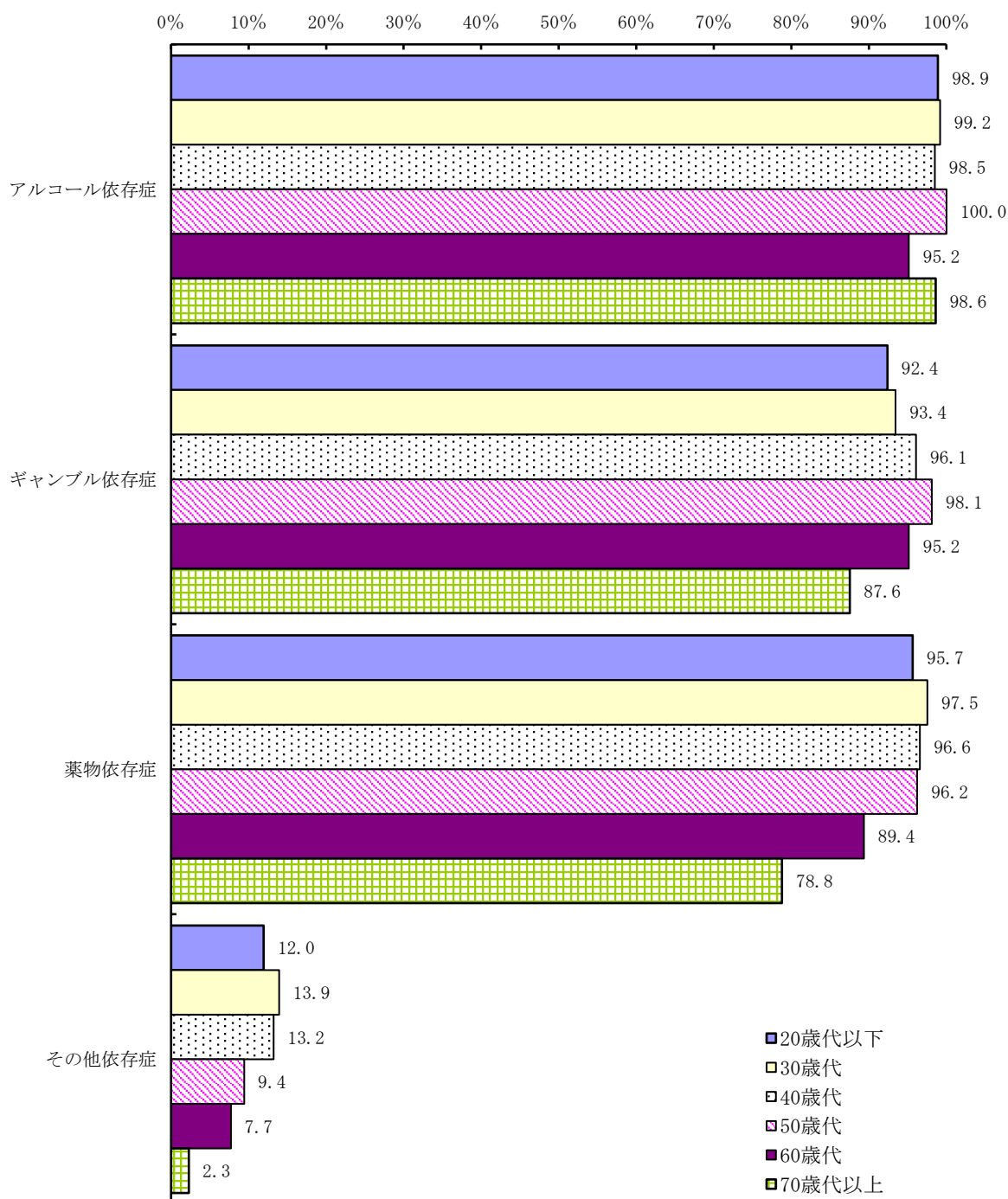
性別にみると、男女共に「アルコール依存症」と答えた人の割合が最も多く、ほぼ同数となっている。（男性98.1%、女性98.3%）

また、「ギャンブル依存症」では男性が女性より1.8ポイント多く、「薬物依存症」では女性が男性より1.4ポイント多くなっている。



【年齢別】

年齢別にみると、全ての年齢層で「アルコール依存症」と答えた人の割合が最も多くなっており、60歳代では「アルコール依存症」と「ギャンブル依存症」とが同率で最も多くなっている。

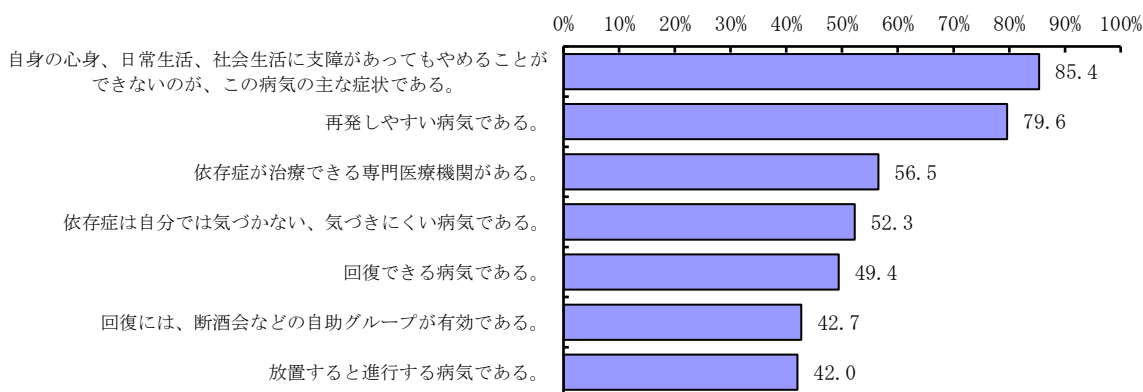


問37-1 依存症の病気の特徴や症状、治療

下記は依存症の病気の特徴や症状、治療について書かれています。次の中からいくつでも選んで番号を○で囲んでください。

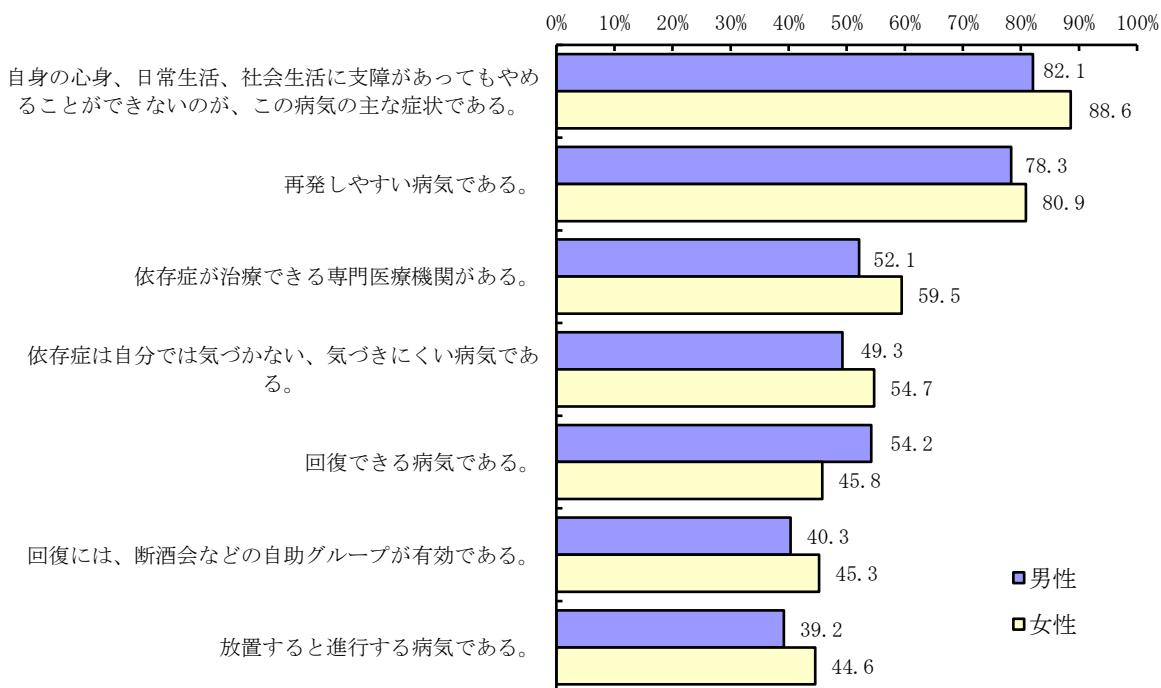
	(複数回答)	(%)
1 自身の心身、日常生活、社会生活に支障があってもやめることができないのが、この病気の主な症状である。		85.4
2 回復できる病気である。		49.4
3 再発しやすい病気である。		79.6
4 放置すると進行する病気である。		42.0
5 依存症が治療できる専門医療機関がある。		56.5
6 依存症は自分では気づかない、気づきにくい病気である。		52.3
7 回復には、断酒会などの自助グループが有効である。		42.7

依存症の病気の特徴や症状、治療について聞いたところ、「自身の心身、日常生活、社会生活に支障があってもやめることができないのが、この病気の主な症状である」と答えた人の割合が85.4%と最も多く、以下「再発しやすい病気である」(79.6%)、「依存症が治療できる専門医療機関がある」(56.5%)、「依存症は自分では気づかない、気づきにくい病気である」(52.3%)、「回復できる病気である」(49.4%)、「回復には、断酒会などの自助グループが有効である」(42.7%)、「放置すると進行する病気である」(42.0%)の順になっている。



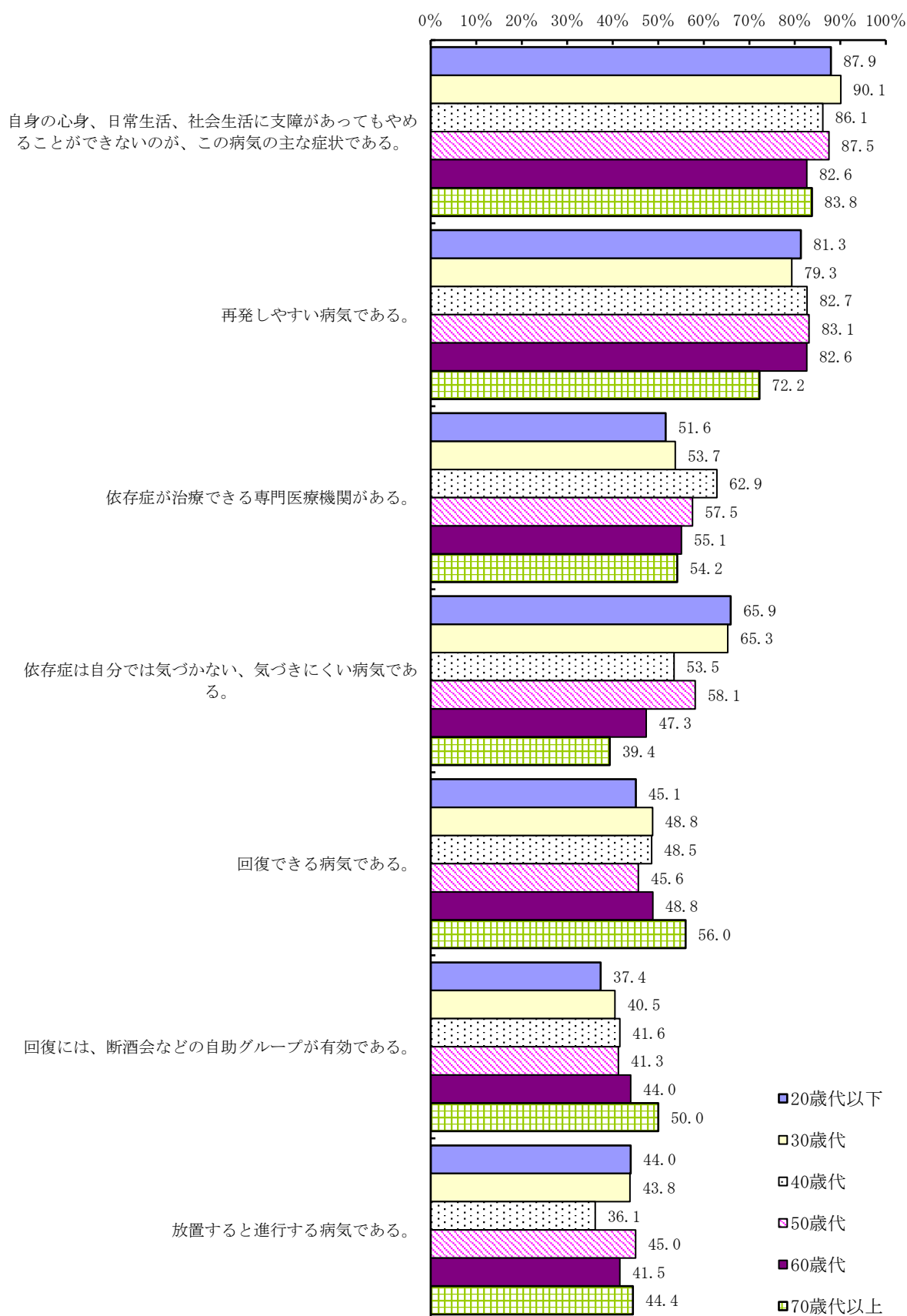
【性別】

性別にみると、男女共「自身の心身、日常生活、社会生活に支障があってもやめることができないのが、この病気の主な症状である」と答えた人の割合が最も多くなっている。また、「回復できる病気である」では男性が女性より8.4ポイント多くなっている。



【年齢別】

年齢別にみると、全ての年齢層で「自身の心身、日常生活、社会生活に支障があってもやめることができないのが、この病気の主な症状である」と答えた人の割合が最も多くなっている。
また、60歳代では「再発しやすい病気である」も同率で最も多くなっている。

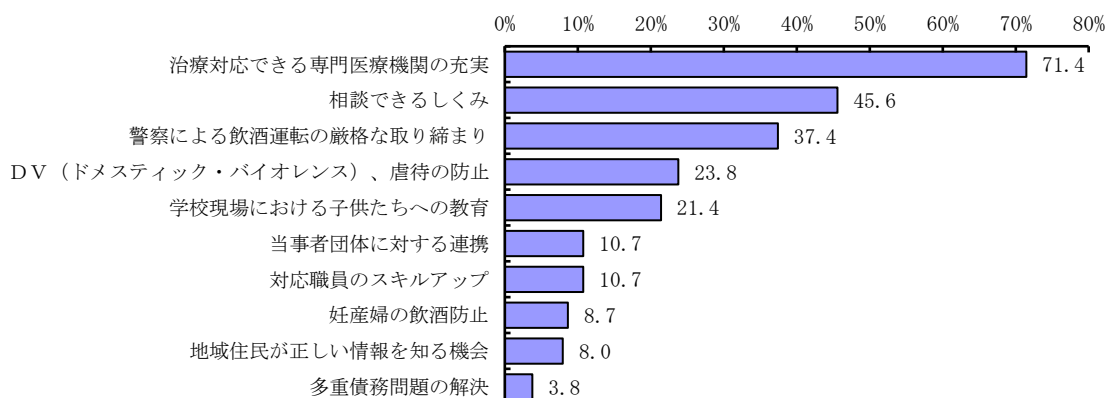


問37-2 依存症への取り組み 【アルコール】

アルコール依存症について、県はどのようなことに特に力を入れたらよいと思いますか。次の中から三つまで選んで番号を○で囲んでください。

	(複数回答)	(%)
1 治療対応できる専門医療機関の充実		71.4
2 相談できるしくみ		45.6
3 当事者団体に対する連携		10.7
4 多重債務問題の解決		3.8
5 地域住民が正しい情報を知る機会		8.0
6 学校現場における子どもたちへの教育		21.4
7 妊産婦の飲酒防止		8.7
8 DV（ドメスティック・バイオレンス）、虐待の防止		23.8
9 対応職員のスキルアップ		10.7
10 警察による飲酒運転の厳格な取り締まり		37.4

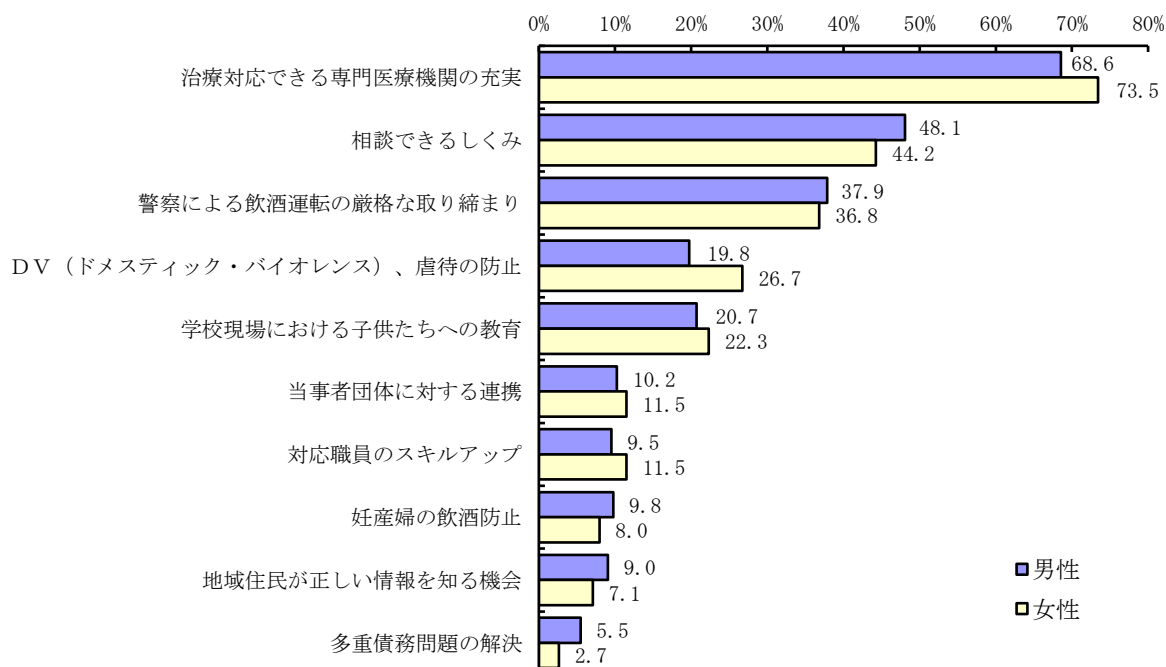
アルコール依存症について、県はどのようなことに特に力を入れたらよいと思うかについて聞いたところ、アルコール依存症では「治療対応できる専門医療機関の充実」と答えた人の割合が71.4%と最も多く、以下「相談できるしくみ」（45.6%）、「警察による飲酒運転の厳格な取り締まり」（37.4%）、「DV（ドメスティック・バイオレンス）、虐待の防止」（23.8%）、「学校現場における子供たちへの教育」（21.4%）などの順になっている。



【性別】

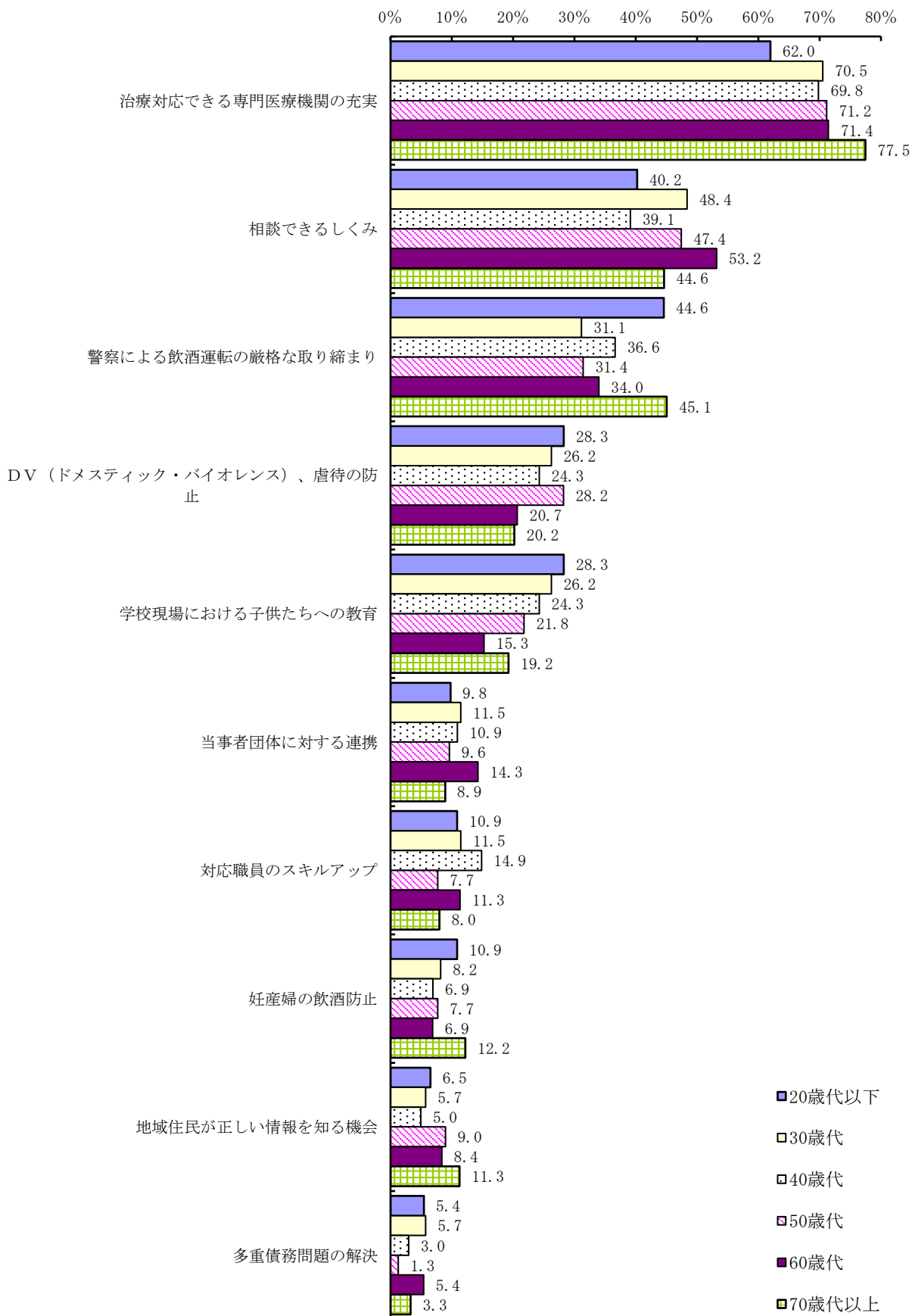
性別にみると、男女共で「治療対応できる専門医療機関の充実」と答えた人の割合が最も多くなっている。

また、「DV（ドメスティック・バイオレンス）、虐待の防止」では、女性が男性と比較して6.9ポイント多くなっている。



【年齢別】

年齢別にみると、全ての年齢層で「治療対応できる専門医療機関の充実」と答えた人の割合が多くなっている。

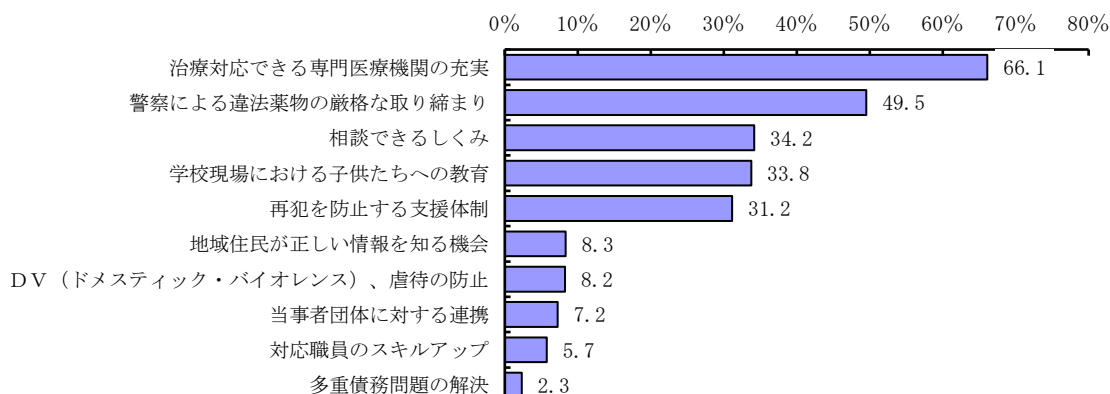


問37-2 依存症への取り組み 【薬物】

薬物依存症について、県はどのようなことに特に力を入れたらよいと思いますか。次の中から**三つまで選んで**番号を○で囲んでください。

	(複数回答)	(%)
1 治療対応できる専門医療機関の充実		66.1
2 相談できるしくみ		34.2
3 当事者団体に対する連携		7.2
4 多重債務問題の解決		2.3
5 地域住民が正しい情報を知る機会		8.3
6 学校現場における子どもたちへの教育		33.8
7 再犯を防止する支援体制		31.2
8 DV（ドメスティック・バイオレンス）、虐待の防止		8.2
9 対応職員のスキルアップ		5.7
10 警察による違法薬物の厳格な取り締まり		49.5

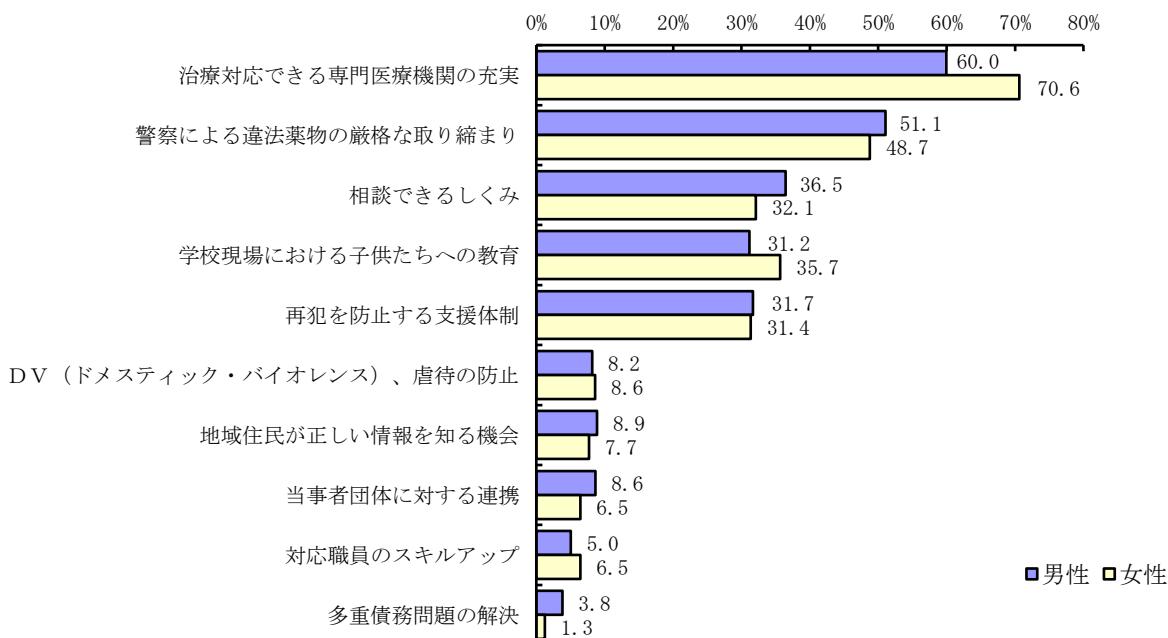
薬物依存症について、県はどのようなことに特に力を入れたらよいと思うかについて聞いたところ、薬物依存症では「治療対応できる専門医療機関の充実」と答えた人の割合が66.1%と最も多く、以下「警察による違法薬物の厳格な取り締まり」（49.5%）、「相談できるしくみ」（34.2%）、「学校現場における子供たちへの教育」（33.8%）、「再犯を防止する支援体制」（31.2%）などの順になっている。



【性別】

性別にみると、男女共で「治療対応できる専門医療機関の充実」と答えた人の割合が最も多くなっている。

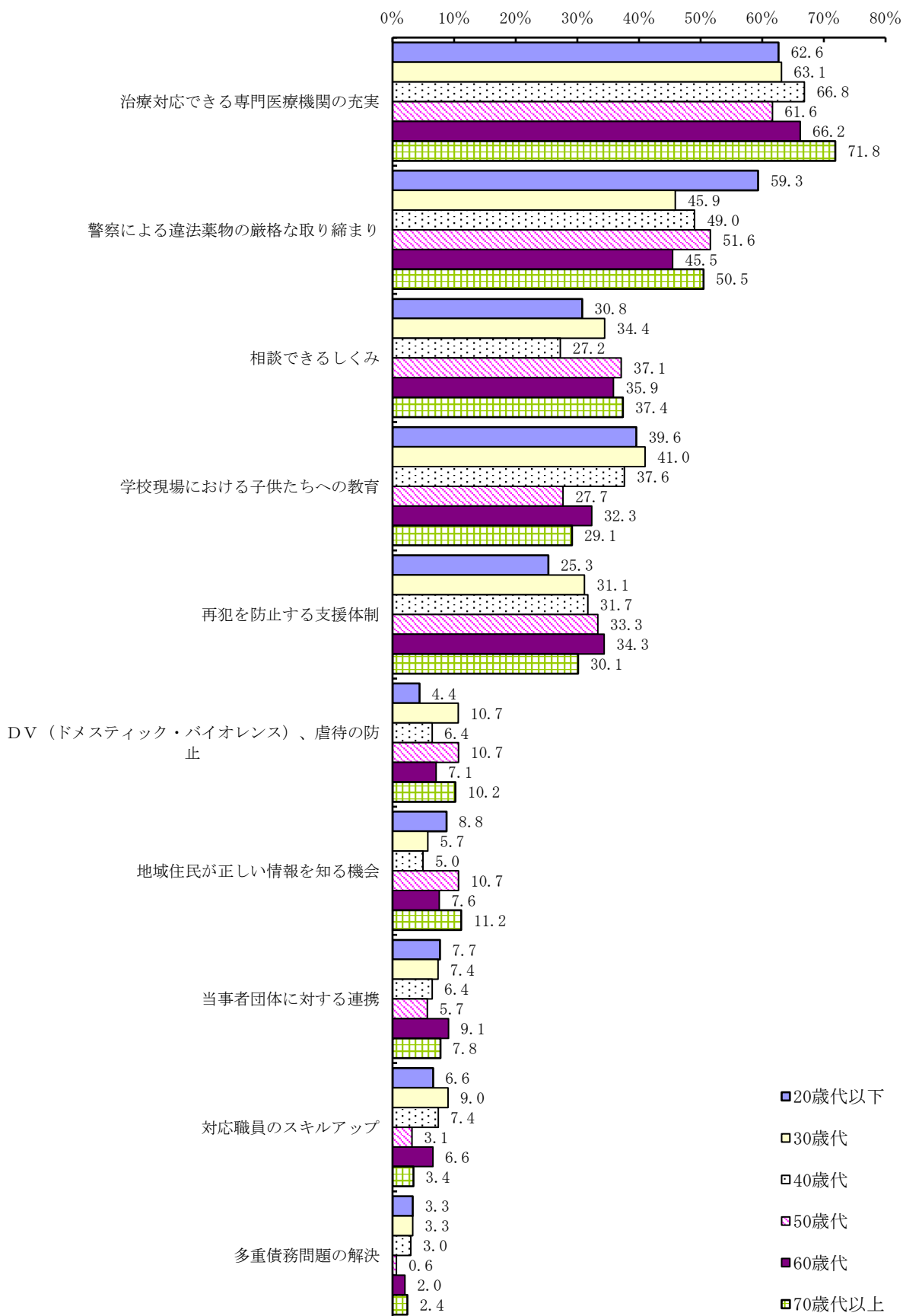
また、「治療対応できる専門医療機関の充実」では、女性が男性より10.6ポイント多くなっている。



【年齢別】

年齢別にみると、全ての年齢層で「治療対応できる専門医療機関の充実」と答えた人の割合が最も多くなっている。

また、「警察による違法薬物の厳格な取り締まり」では、20歳代以下が他の年齢層と比較して特に多くなっている。

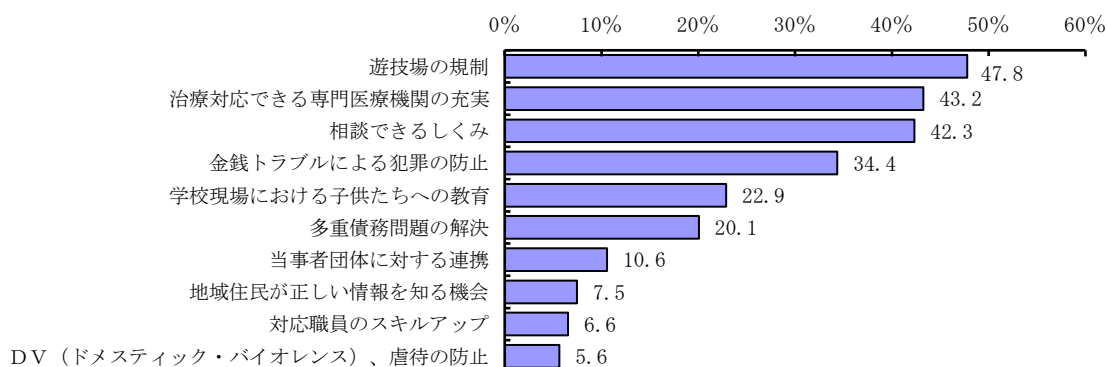


問37-2 依存症への取り組み 【ギャンブル】

ギャンブル依存症について、県はどのようなことに特に力を入れたらよいと思いますか。次の中から**三つまで選んで**番号を○で囲んでください。

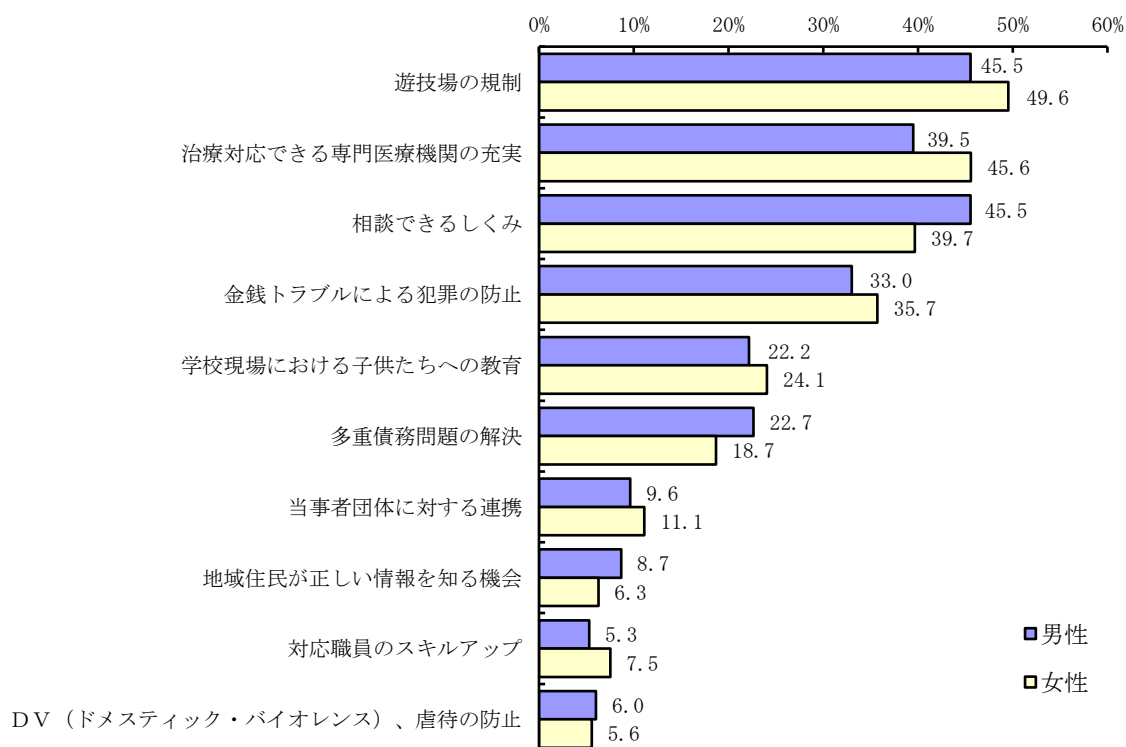
	(複数回答)	(%)
1 治療対応できる専門医療機関の充実		43.2
2 相談できるしくみ		42.3
3 当事者団体に対する連携		10.6
4 多重債務問題の解決		20.1
5 地域住民が正しい情報を知る機会		7.5
6 学校現場における子どもたちへの教育		22.9
7 遊技場の規制		47.8
8 DV (ドメスティック・バイオレンス)、虐待の防止		5.6
9 対応職員のスキルアップ		6.6
10 金銭トラブルによる犯罪の防止		34.4

ギャンブル依存症について、県はどのようなことに特に力を入れたらよいと思うかについて聞いたところ、ギャンブル依存症では「遊技場の規制」と答えた人の割合が47.8%と最も多く、以下「治療対応できる専門医療機関の充実」(43.2%)、「相談できるしくみ」(42.3%)、「金銭トラブルによる犯罪の防止」(34.4%)、「学校現場における子供たちへの教育」(22.9%)、「多重債務問題の解決」(20.1%)などの順になっている。



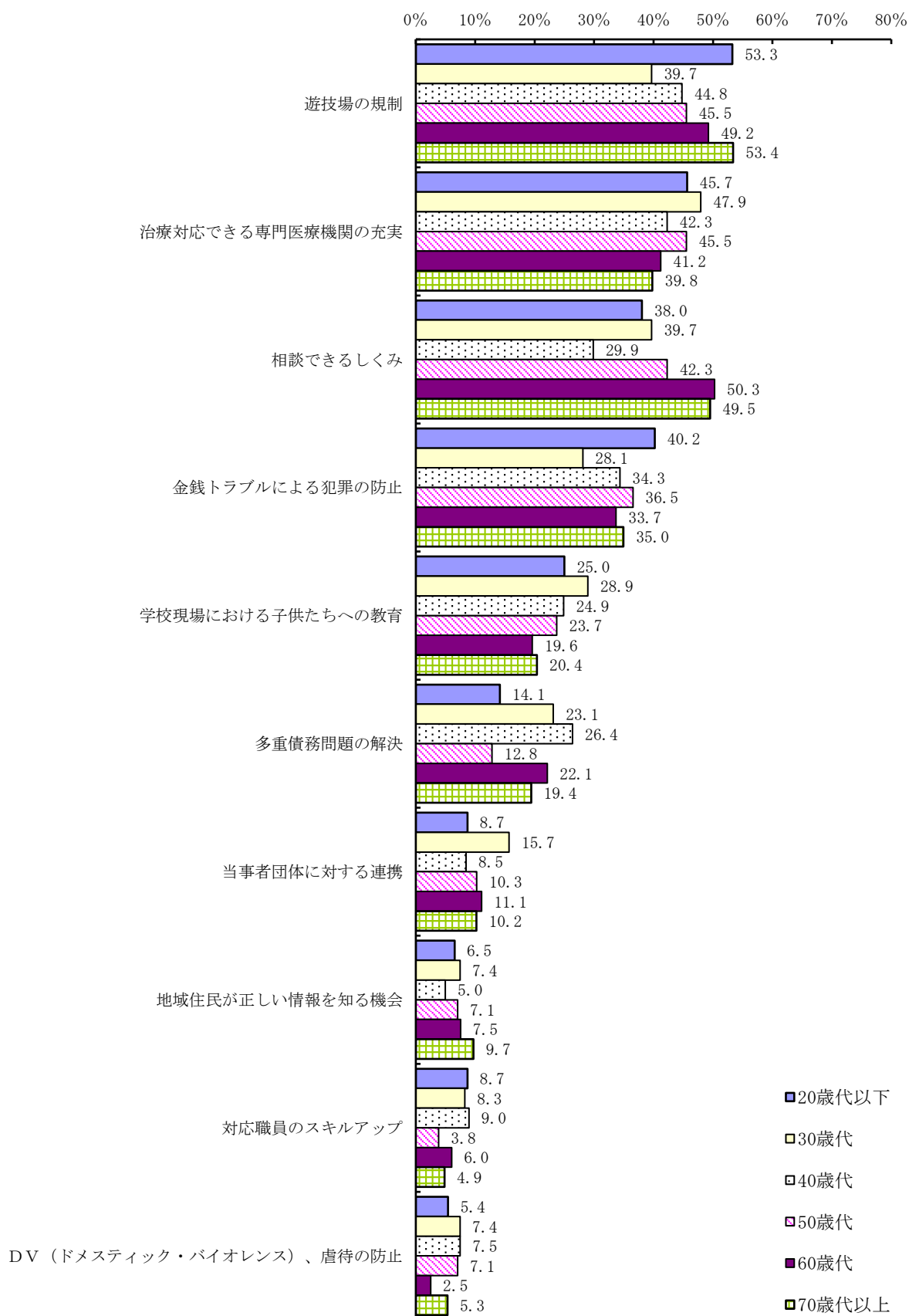
【性別】

性別にみると、男女共で「遊技場の規制」と答えた人の割合が最も多く、男性は「相談できるしくみ」も同率で最も多い。



【年齢別】

年齢層別にみると、30歳代及び60歳代を除く全ての年齢層で「遊技場の規制」と答えた人の割合が最も多く、50歳代では「治療対応できる専門医療機関の充実」も同率で最も多く、30歳代では「治療対応できる専門医療機関の充実」が最も多く、60歳代では「相談できるしくみ」が最も多くなっている。



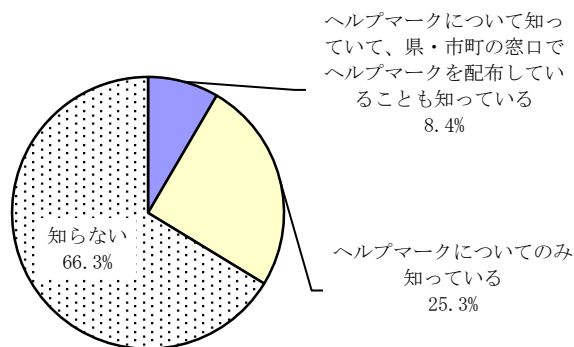
ヘルプマーク・パーキングパーミット制度の認知度について

問38 ヘルプマークの認知度

県では、平成29年10月から、外見から分かりにくい障がいのある方が身に付けることで周囲から支援を受けやすくするヘルプマークについて、県と20市町で配布をしているところですが、あなたは、ヘルプマークについて知っていますか。次の中から**一つ選んで**番号を○で囲んでください。

	(%)
1 ヘルプマークについて知っていて、県・市町の窓口でヘルプマークを配布していることも知っている	8.4
2 ヘルプマークについてのみ知っている	25.3
3 知らない	66.3

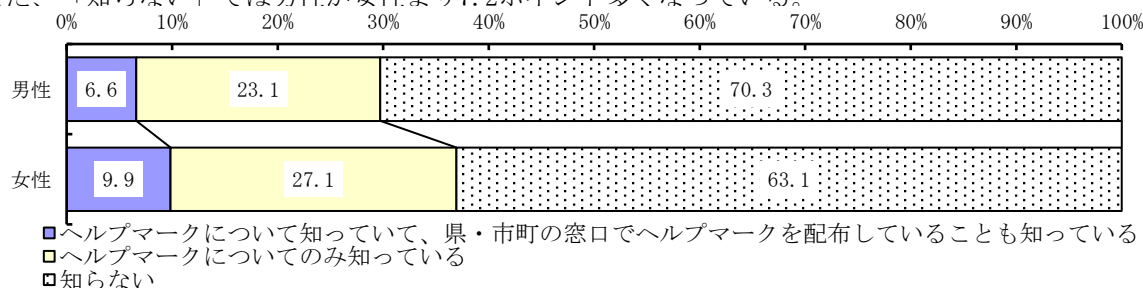
外見から分かりにくい障がいのある方が身に付けることで周囲から支援を受けやすくするヘルプマークについて聞いたところ、「知らない」と答えた人の割合が66.3%と最も多く、以下「ヘルプマークについてのみ知っている」(25.3%)、「ヘルプマークについて知っていて、県・市町の窓口でヘルプマークを配布していることも知っている」(8.4%)の順になっている。



【性別】

性別にみると、男女共で「知らない」と答えた人の割合が最も多くなっている。(男性70.3%、女性63.1%)

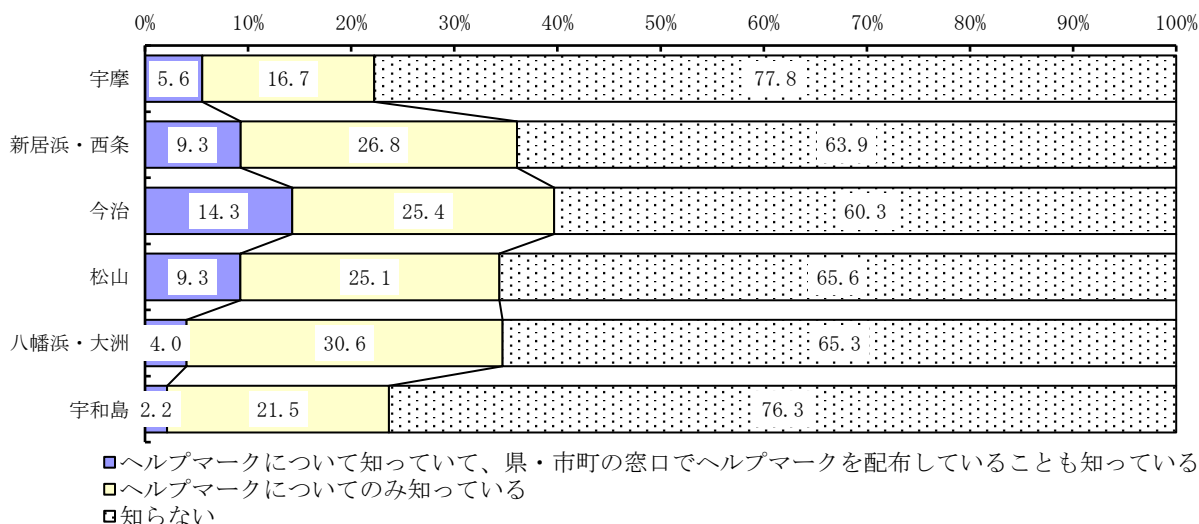
また、「知らない」では男性が女性より7.2ポイント多くなっている。



【生活圏域別】

生活圏域別にみると、全ての圏域で「知らない」と答えた人の割合が最も多くなっている。

また、今治圏域では「ヘルプマークについて知っていて、県・市町の窓口でヘルプマークを配布していることも知っている」と答えた割合の人が他の圏域と比較して特に多くなっている。

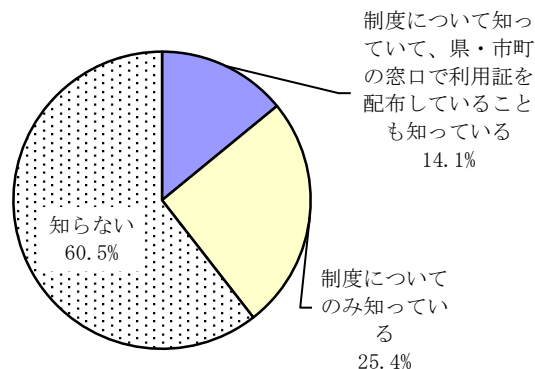


問38-1 パーキングパーミット制度の認知度

県では、平成22年7月から、身体障がい者等用駐車場について必要な方が利用しやすくするパーキングパーミット制度を導入し、県と20市町で利用証を配布しているところですが、あなたは、パーキングパーミット制度について知っていますか。次の中から一つ選んで番号を○で囲んでください。

	(%)
1 制度について知っていて、県・市町の窓口で利用証を配布していることも知っている	14.1
2 制度についてのみ知っている	25.4
3 知らない	60.5

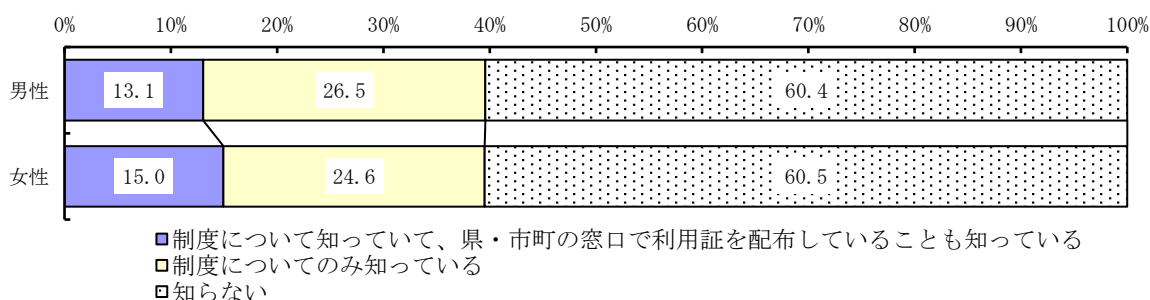
身体障がい者等用駐車場について必要な方が利用しやすくするパーキングパーミット制度について聞いたところ、「知らない」と答えた人の割合が60.5%と最も多く、以下「制度についてのみ知っている」(25.4%)、「制度について知っていて、県・市町の窓口で利用証を配布していることも知っている」(14.1%)の順になっている。



【性別】

性別にみると、男女共で「知らない」と答えた人の割合がほぼ同数で最も多くなっている。(男性60.4%、女性60.5%)

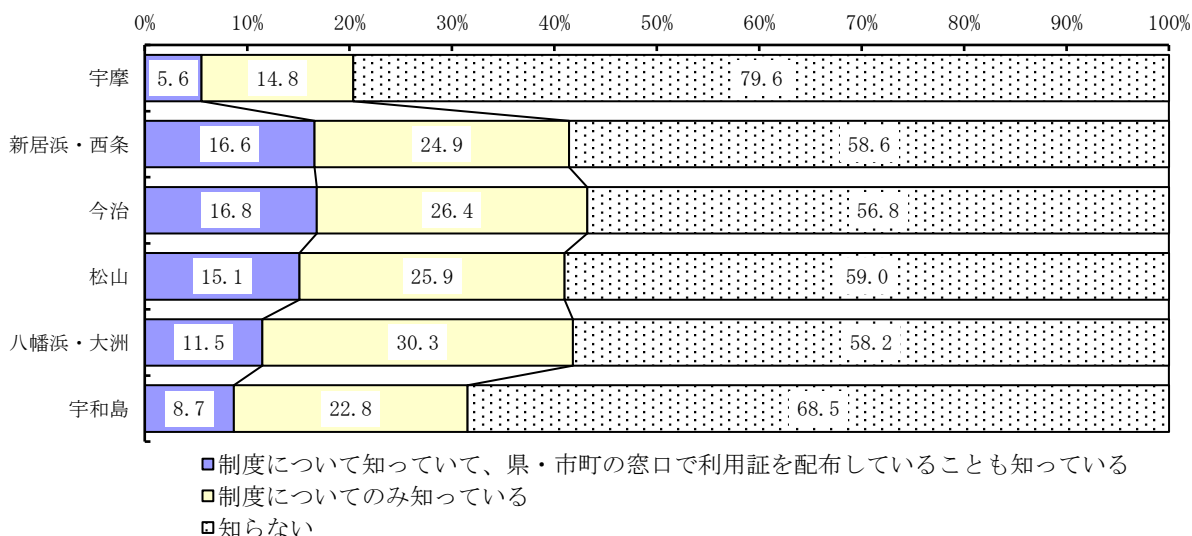
また、「制度についてのみ知っている」では男性が女性より1.9ポイント多くなっている。



【生活圏域別】

生活圏域別にみると、全ての圏域で「知らない」と答えた人の割合が最も多くなっている。

また、宇摩圏域では「知らない」と答えた割合の人が他の圏域と比較して特になくなっている。



文化財への関心度
問39 文化財の見学状況

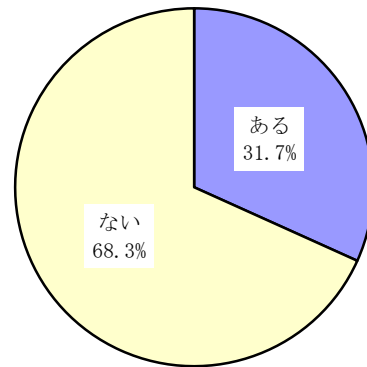
あなたは、過去1年間（平成29年1月から平成29年12月まで）に、国・地方公共団体が指定・選定を行っている文化財を見学したことがありますか。次の中から一つ選んで番号を○で囲んでください。

- | | | |
|---|----|------|
| | | (%) |
| 1 | ある | 31.7 |
| 2 | ない | 68.3 |

どのような文化財を見学されましたか。見学した文化財の種類について、次の中からいくつでも選んで番号を○で囲んでください。

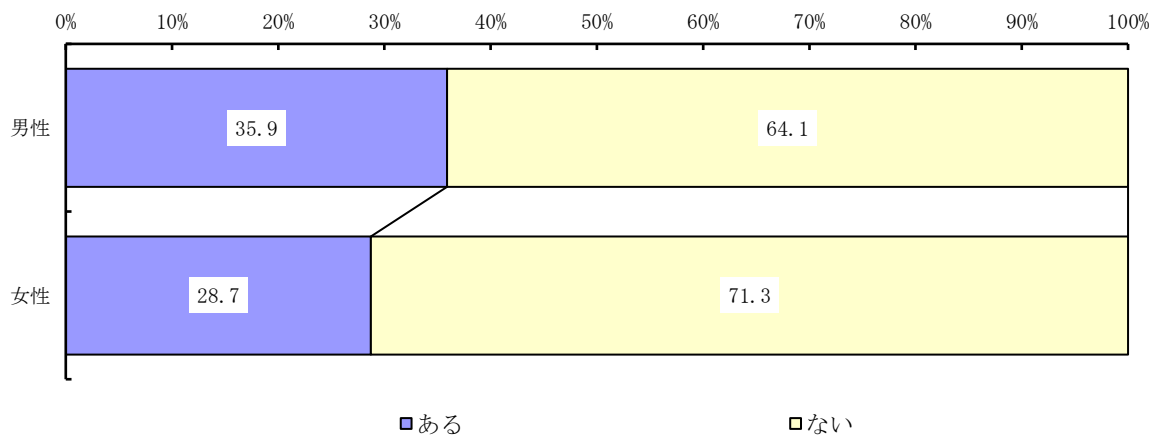
	(回答者=339人)	(複数回答)	(%)
1	建造物		67.6
2	絵画・彫刻・古文書等の美術工芸品		36.3
3	演劇・音楽・工芸技術等の無形文化財		11.8
4	生業・信仰・年中行事等の民俗文化財		10.3
5	史跡・名勝地・天然記念物の記念物		54.9
6	棚田・段畑等の文化的景観		19.5
7	伝統的建造物群保存地区		23.0

過去1年間（平成29年1月から平成29年12月まで）に、国・地方公共団体が指定・選定を行っている文化財を見学したことがあると聞いたところ、「ある」と答えた人の割合が31.7%、「ない」が68.3%となっている。



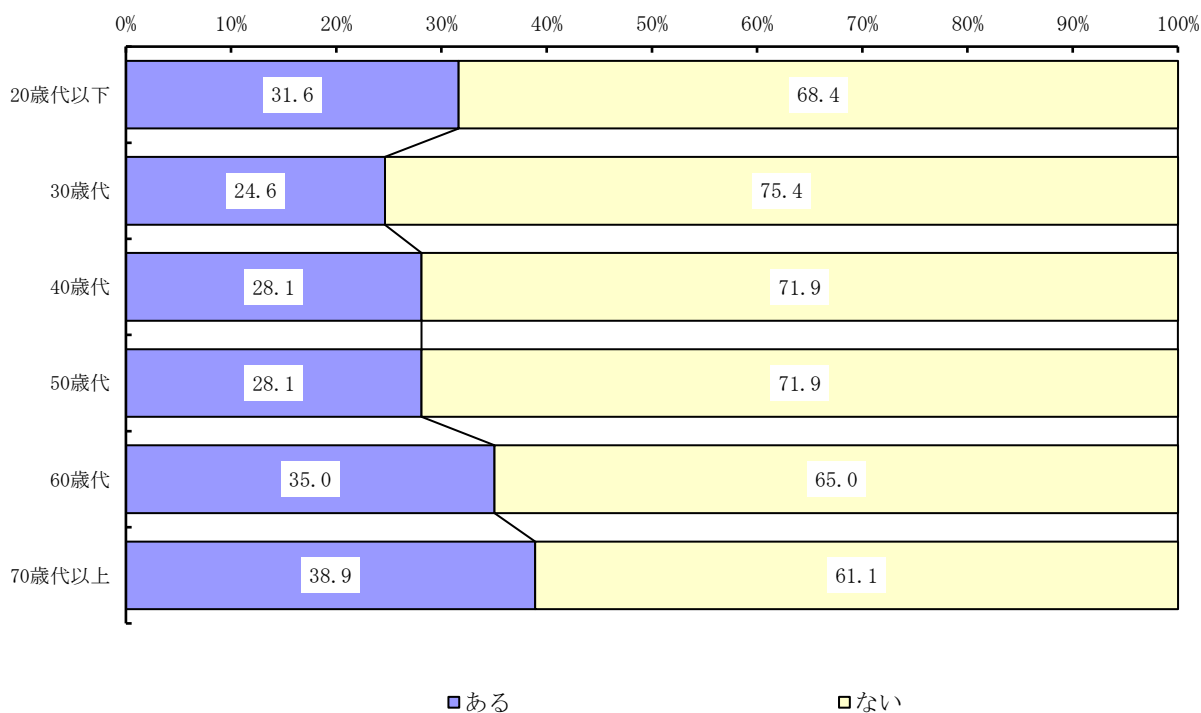
【性別】

性別で見ると、「ある」と答えた人の割合は、男性（35.9%）の方が女性（28.7%）より7.2ポイント多くなっている。



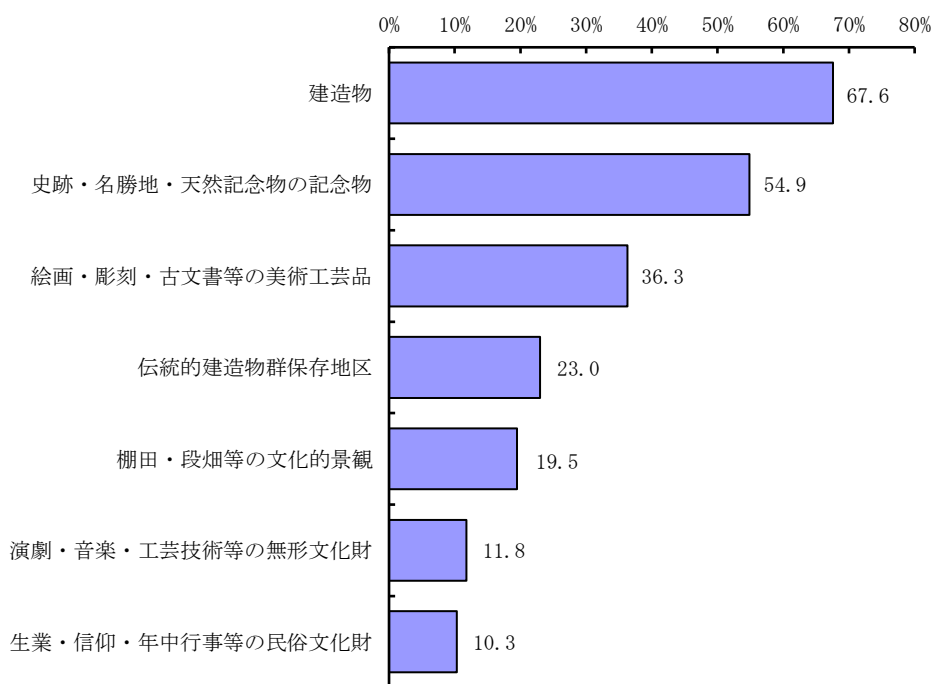
【年齢別】

年齢別でみると、全ての年齢層で「ない」と答えた人の割合が多くなっている。
また、30歳代では「ない」と答えた割合の人が他の年齢層と比較して特になくなっている。



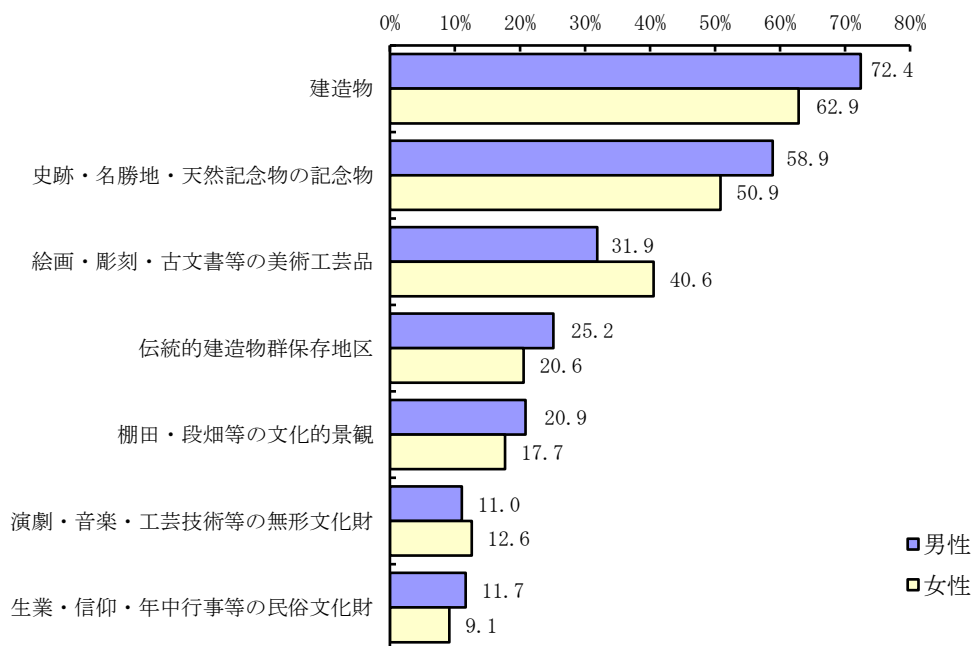
《見学したことがある文化財》

問39で「ある」と答えた人に、見学したことがある文化財を聞いたところ、「建造物」と答えた人の割合が67.6%で最も多く、以下「史跡・名勝地・天然記念物の記念物」(54.9%)、「絵画・彫刻・古文書等の美術工芸品」(36.3%)、「伝統的建造物群保存地区」(23.0%)、「棚田・段畑等の文化的景観」(19.5%)などの順になっている。



【性別】

性別でみると、「絵画・彫刻・古文書等の美術工芸品」と「演劇・音楽・工芸技術等の無形文化財」と答えた人の割合は、女性の方が男性より多くなっているが、それ以外は女性より男性の方が多くなっている。



【年齢別】

年齢別にみると、全ての年齢層で「建造物」と答えた人の割合が最も多く、60歳代では「建造物」と「史跡・名勝地・天然記念物の記念物」とが同率で最も多くなっている。また、「建造物」では、30歳代及び20歳代以下が他の年齢層と比較して特に多くなっている。

